

# 西東京市都市と農業が共生するまちづくりモデルプラン



西東京市農産物キャラクター  
「めぐみちゃん」

平成 22 年 3 月

西 東 京 市

## はじめに

農地は、安全で安心な農産物を供給する生産の場であるとともに、貴重な緑地空間、教育資源、災害時の避難場所など、様々な役割と可能性を兼ね備えた市民にとってかけがえのないものになっています。

ただ、その一方で、市街化の進行や担い手、後継者不足など農業を継続していくには、とても厳しいものになっています。

このような状況の中で東京都では、農業が魅力ある産業として発展していくことにより、貴重な都市農地を保全するため「都市と農業・農地の共生」をキーワードとする「農業・農地を活かしたまちづくりガイドライン」を策定しています。また、東京都では、このガイドラインを参考にして、まちづくりの主体である区市が農業・農地のもつ多面的機能を活かしたモデルプランを作成する取り組みを支援しています。

西東京市では、この東京都の支援策を活用し、貴重な農地をこれからも残していくために「西東京市都市と農業が共生するまちづくり協議会」を設置し、都市と農業が共生するためのモデルプランを検討してきました。協議会では、西東京市の農業・農地の現状と課題や多面的機能発揮に関わる現状の取り組みを踏まえ、どのようにすれば地域の特性を活かし、多面的機能を発揮することが出来るかを中心に検討してきました。

この「西東京市都市と農業が共生するまちづくりモデルプラン」では、農業者と市民、行政などが協力して、農地の持つ多面的機能を発揮できる地域を定め、それぞれの地域の特色を活かせる展開案が示されています。

今後は、このモデルプランを基に農業者と市民、行政などが協力して実現に向けた検討を進めていく予定です。

## 目次

1．西東京市の農業・農地の現状と課題.....	1
（1）西東京市の農業・農地の現状.....	1
（2）西東京市での市民の農とのふれあいの現状.....	6
（3）西東京市の農業・農地の課題.....	7
2．西東京市における農業・農地の多面的機能発揮に関わる現状の取り組み.....	9
（1）農産物供給機能.....	10
（2）レクリエーション・コミュニティ機能.....	11
（3）福祉・保健機能.....	11
（4）環境保全機能.....	12
（5）教育機能.....	12
（6）防災機能.....	13
（7）景観形成・歴史文化伝承機能.....	13
3．西東京市都市と農業が共生するまちづくりのモデル検討地域の現況特性.....	14
（1）モデル検討地域の抽出.....	14
（2）モデル検討地域の検討条件と現況特性.....	15
4．西東京市都市と農業が共生するまちづくりの目的と方針.....	24
5．西東京市都市と農業が共生するまちづくりプラン.....	25
（1）西東京市での都市と農業が共生するまちづくりの基本的考え方.....	25
（2）西東京市での都市と農業が共生するまちづくりのリーディングプロジェクト案.....	28
（3）東大農場及び周辺エリアでの都市と農業が共生するまちづくりの展開案.....	32
（4）各地域エリアでの都市と農業が共生するまちづくりの展開案.....	36
6．今後に向けて.....	42
（1）多様な主体の参加による西東京市都市と農業が共生するまちづくりの全体的な展開イメージ.....	42
（2）今後に向けて.....	44
7．西東京市都市と農業が共生するまちづくり協議会委員名簿.....	45

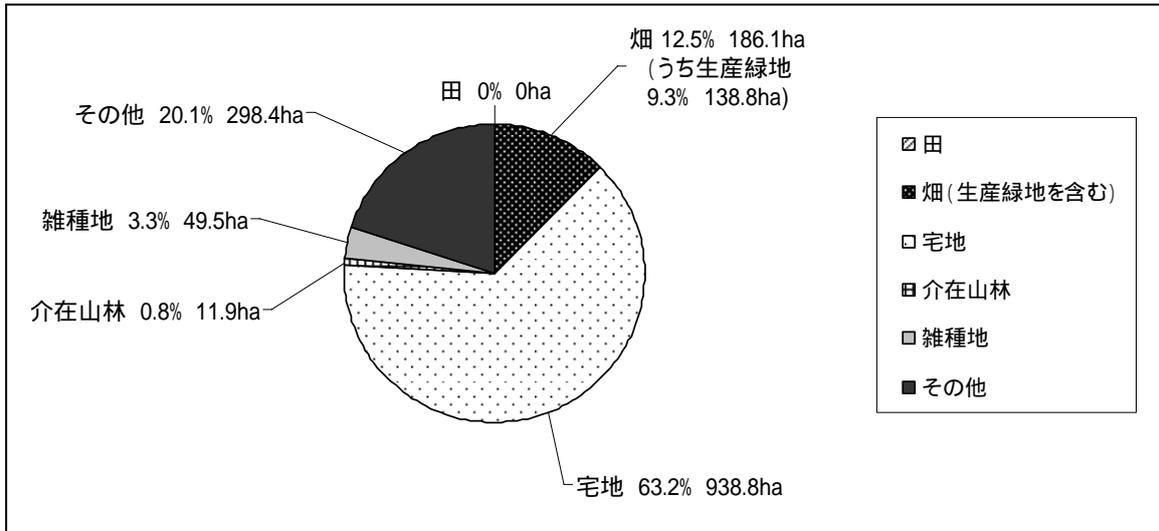
# 1. 西東京市の農業・農地の現状と課題

## (1) 西東京市の農業・農地の現状

### 1) 農地の状況

西東京市の地目別土地利用面積（平成 21 年度）では、宅地が 938.8ha（63.2%）に対し、農地は 186.1ha（12.5%）となっています。

地目別土地面積（平成 21 年度）

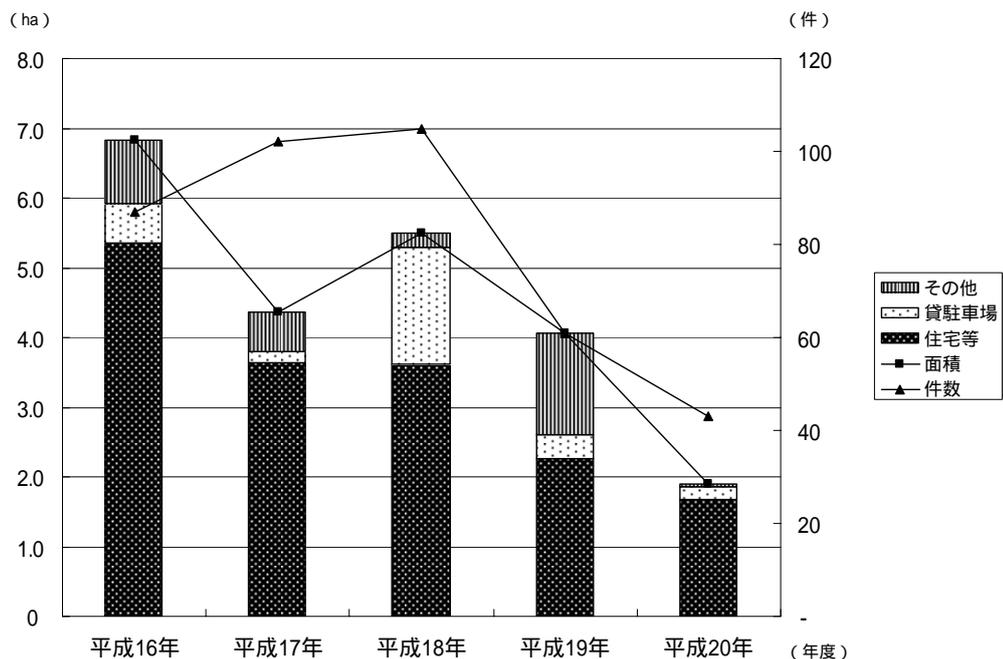


(資料：固定資産税平成 21 年度概要調書)

1ha = 10,000 m<sup>2</sup>

また、平成 16 年度から 20 年度までの農地転用状況をみると、6.8ha から 1.8ha と全体に減ってきていますが、社会状況によって変動が予想されます。

### 農地転用の推移



(資料：農業委員会)

1ha = 10,000 m<sup>2</sup>

平成 17 年の農業センサスでは、販売農家の経営耕地面積は 182.3ha、自給的農家の経営耕地面積は約 1.3ha で、家族経営体の種類別面積によると畑が 79%と大半を占めています。

経営耕地面積：販売農家

単位：a

	総数	水田	畑	樹園地				
				小計	果樹園	茶園	桑園	その他
平成7年	22,795	0	14,986	7,809	3,385	150	0	4,274
平成12年	20,007	0	14,189	5,818	2,299	137	0	3,382
構成比	100.0%	0.0%	70.9%	29.1%	11.5%	0.7%	0.0%	16.9%
田無分実数	9,588	0	6,717	2,871	284	0	0	2,587
構成比	100.0%	0.0%	70.1%	70.1%	70.1%	70.1%	70.1%	70.1%
保谷分実数	10,419	0	7,472	2,947	2,015	137	0	795
構成比	100.0%	0.0%	71.7%	28.3%	19.3%	1.3%	0.0%	7.6%

(資料：農業センサス)

1a = 100 m<sup>2</sup>

経営耕地面積：販売農家 単位：a

	総数
平成 17 年	18,230

(資料：農業センサス)

1a = 100 m<sup>2</sup>

経営耕地面積：家族経営体

単位：a

	総数	水田	畑	樹園地
平成 17 年	18,729	30	14,800	3,899
構成比	100.0%	0.16%	79.02%	20.82%

(資料：農業センサス)

1a = 100 m<sup>2</sup>

経営耕地面積：自給的農家

単位：a

	総数	水田	畑	樹園地
平成12年	1,409	0	1,168	241
構成比	100.0%	0.0%	82.9%	17.1%
田無分実数	417	0	338	79
構成比	100.0%	0.0%	81.1%	18.9%
保谷分実数	992	0	830	162
構成比	100.0%	0.0%	83.7%	16.3%

(資料：農業センサス)

1a = 100 m<sup>2</sup>

経営耕地面積：自給的農家 単位：a

	総数
平成 17 年	1,286

(資料：農業センサス)

1a = 100 m<sup>2</sup>

販売農家：経営耕地面積が 30 アール以上又は農産物販売金額が 50 万円以上の農家をいう。なお、農家とは調査期日現在の経営耕地面積が 10 アール以上の農業を営む世帯又は経営耕地面積が 10 アール未満であっても調査期日前 1 年間の農産物販売金額が 15 万円以上あった世帯（例外規定農家）をいう。

家族経営体：農業経営体のうち個人経営体（農家）及び法人経営体のうち一戸一人をいう。

自給的農家：経営耕地面積が 30 アール未満かつ農産物販売金額が調査期日前 1 年間で 50 万円未満である農家をいう。

## 2) 農家の状況

平成 17 年の農業センサスでは、農家数は、306 戸で、うち専業農家が 90 戸(29.4%)、第 1 種兼業農家が 28 戸(9.2%)、第 2 種兼業農家が 110 戸(35.9%)、自給的農家が 78 戸(25.5%)となっています。

### 専業別農家数及び農業人口の推移

単位：戸

	総農家数	販売農家					自給的農家	農家人口	就業人口
		計	専業農家	兼業農家		小計			
				第1種兼業	第2種兼業				
平成7年	355	274	11	42	221	81	1,709	966	
構成比	100.0%	77.2%	3.1%	74.1%	62.3%	22.8%	100.0%	56.5%	
平成12年	324	243	66	56	121	81	1,528	619	
構成比	100.0%	75.0%	20.4%	54.6%	37.3%	25.0%	100.0%	40.5%	
田無分実数	118	94	19	27	48	24	597	243	
構成比	100.0%	79.7%	16.1%	63.6%	40.7%	20.3%	100.0%	40.7%	
保谷分実数	206	149	47	29	73	57	931	376	
構成比	100.0%	72.3%	22.8%	49.5%	35.4%	27.7%	100.0%	40.4%	
平成17年	306	228	90	28	110	78	1,350	591	
構成比	100.0%	74.5%	29.4%	45.1%	35.9%	25.5%	100.0%	43.8%	

(資料：農業センサス)

平成 17 年の就業人口は販売農家

平成 17 年の農業センサスでは、基幹的従業者は 474 人で、年齢構成は 70 歳以上が 158 人(33.3%)、60~69 歳が 108 人(22.8%)で、60 歳以上が 266 人(56.1%)を占め、平成 7 年と比べると一層高齢化が進んでいる一方で、40 歳代は 22 人(34.9%)増加しています。

### 基幹的従業者の年齢別人口

単位：人

年齢別	平成7年	構成比	平成12年	構成比	平成17年	構成比	10年間の増減(平成7~17年)	
							増減数	増減率
総数	475	100.0%	490	100.0%	474	100.0%	-1	-0.2%
15~19歳	2	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	-2	-100.0%
20~29歳	12	2.5%	10	2.0%	8	1.7%	-4	-33.3%
30~39歳	54	11.4%	35	7.1%	33	7.0%	-21	-38.9%
40~49歳	63	13.3%	83	16.9%	85	17.9%	22	34.9%
50~59歳	96	20.2%	80	16.3%	82	17.3%	-14	-14.6%
60~69歳	146	30.7%	139	28.4%	108	22.8%	-38	-26.0%
70歳以上	102	21.5%	143	29.2%	158	33.3%	56	54.9%

(資料：農業センサス)

平成 17 年の統計は販売農家

兼業農家：世帯員の中に兼業従事者が 1 人以上いる農家をいう。

第 1 種兼業農家：農業所得を主とする兼業農家をいう。

第 2 種兼業農家：農業所得を従とする兼業農家をいう。

基幹的農業従業者：調査期日前 1 年間に主として自営農業に従事した世帯員のうち、ふだんの主な状態が「仕事に従事していた者」をいう。

平成 17 年の農業センサスでは、経営耕地面積規模別農家数は、5～30a 未満が 96 人（31.4%）、30～50a 未満が 64 人（20.9%）、50～100a 未満が 94 人（30.7%）となっており、100a 未満が 254 人（83.0%）となっています。

経営耕地面積規模別農家数推移

単位：戸

面積規模区分	平成7年	平成12年	平成17年	構成比	10年間の増減(平成7～17年)	
					増減数	増減率
総数	355	324	306	100.0%	-49	-13.8%
例外規定	-	0	0	0.0%	0	0.0%
5～30a未満	94	99	96	31.4%	2	2.1%
30～50a未満	88	72	64	20.9%	-24	-27.3%
50～100a未満	103	87	94	30.7%	-9	-8.7%
100～150a未満	44	41	29	9.5%	-15	-34.1%
150～200a未満	15	14	15	4.9%	0	0.0%
200～300a未満	7	5	3	1.0%	-4	-57.1%
300～500a未満	2	2	2	0.6%	0	0.0%
500a以上	2	4	3	1.0%	1	50.0%

(資料：農業センサス)

1a = 100 m<sup>2</sup>

### 3) 農業経営の状況

平成 17 年の農業センサスでは、販売金額別農家数では、50 万円未満が 39 戸（17.1%）、50～100 万円未満が 37 戸（14.6%）、100～200 万円未満が 40 戸（15.7%）と 200 万円未満が 116 戸（50.8%）となっています。一方、500 万円以上の農家は 49 戸で 19.3% を占めます。

農産物販売金額別農家数

単位：戸

販売金額別	平成7年	平成12年	平成17年	構成比	10年間の増減(平成7～17年)	
					増減数	増減率
総数	302	243	228	100.0%	-74	-24.5%
販売なし	12	11	14	6.1%	2	16.7%
50万円未満	72	38	39	17.1%	-33	-45.8%
50～100万円未満	49	42	37	16.2%	-12	-24.5%
100～200万円未満	34	47	40	17.5%	6	17.6%
200～300万円未満	37	21	29	12.7%	-8	-21.6%
300～500万円未満	35	34	20	8.8%	-15	-42.9%
500～700万円未満	23	21	29	12.7%	6	26.1%
700～1000万円未満	15	10	9	3.9%	-6	-40.0%
1000～1500万円未満	13	10	6	2.6%	-7	-53.8%
1500～2000万円未満	5	9	1	0.4%	-4	-80.0%
2000万円以上	7	-	4	1.8%	-3	-42.9%

(資料：農業センサス)

#### 4) 農作物の状況

平成17年の農業センサスでは、作物別作付面積では、花き類・花木類(3,896a) その他の野菜(2,799a) キャベツ(2,488a) 種苗・苗木類(2,214a) くり(1,845a) ほうれんそう(1,214a) だいこん(802a)の順に多くなっています。

販売目的で作付け(栽培)した作物別作付農家数及び面積：平成17年

種類別	総 数	
	農家数：戸	面積：a
花き類・花木・芝	86	3,896
その他の野菜	142	2,799
キャベツ	125	2,488
種苗・苗木類	44	2,214
くり	35	1,845
ほうれんそう	145	1,214
だいこん	150	802
こまつな	100	800
そば・ひえ・あわ・とうもろ こし・きび・その他の雑穀	11	676
さといも	129	547
その他の作物	14	537
ばれいしょ	111	484
かき	45	458
うめ	33	447
なし(和種)	14	373
トマト	138	318
にんじん	85	307
ねぎ	103	298
なす	140	264
きゅうり	127	253
ぶどう	12	210
結球はくさい	79	181
かんしょ	39	161
たまねぎ	54	92
ピーマン	50	80
その他の豆類	34	79
レタス	26	35
すいか	15	22
いちご	10	15

(資料：農業センサス)

1a = 100 m<sup>2</sup>

## (2) 西東京市での市民の農とのふれあいの現状

### 1) 直売所

直売所は野菜が75カ所、花が6カ所、果実が12カ所、計93カ所(1カ所野菜、果実重複)あります。

### 2) 市民農園の状況

市内には4カ所の市民農園と1カ所の家族農園があり、総数は409区画、11,847㎡となっています。市民農園は市が管理運営、家族農園は利用者の受付は市、管理運営は農家を実施しています。

市民農園・家族農園一覧：平成21年4月現在

区分	名称	区画数	面積：㎡	開設年
市民農園	新町	93	1,752	平成11年12月
	北町	33	1,314	平成11年12月
	富士町	130	2,269	平成18年4月
	西原	53	1,076	平成21年4月
家族農園	北芝	100	5,436	平成7年4月
計		409	11,847	

### 3) 農業体験農園

農家の方の技術指導を受けながら野菜栽培ができる農業体験農園は市内では4ヶ所開設しています。

農業体験農園一覧：平成21年4月現在

名称	区画数	開設年
トミー倶楽部	100	平成18年3月
きたっぱら	83	平成18年3月
芝久保元気村	24	平成19年3月
ファーマーズT	56	平成21年3月

### ( 3 ) 西東京市の農業・農地の課題

西東京市の農業・農地や市民の農とのふれあいの現状を踏まえ、農業・農地の課題は以下のようになっています。

#### 【農地の保全】

- ・ 西東京市の農地は市域の 12.5%に過ぎないが、農業生産の場であるとともに、貴重な緑地空間でもあり、市民の農地保全意向も高くなっています。そのため、生産緑地地区だけでなく宅地化農地も含めた維持方策の検討や、生産緑地地区の追加指定等を検討する必要があります。
- ・ 農地の保全には相続税の問題が大きく、相続時には生産緑地地区も処分せざるを得ない状況があり制度の改善や相続税納税猶予農地の維持方策を検討する必要があります。

#### 【生産環境の整備】

- ・ 都市農業は、居住環境との調整などの課題を抱えていることから、生産環境（農薬の飛散防止策など）整備については、助成制度面も含め農家に情報発信し、農地の有効な活用を図る必要があります。

#### 【農業生産の向上】

- ・ 農業センサスでは、農業所得が 200 万円未満の農家が 52.7%となっており、農業所得が高い農家も不動産所得を背景に農業に専念する状況があります。西東京市の農業は、露地野菜、施設野菜、花き、果樹、植木等多様であり、経営形態に応じた支援体制を検討する必要があります。
- ・ 農業所得が低い農家も、市民との交流等により農産物の有効利用（うめ、くりの販売、加工等）を図り所得の向上を図ることが大切です。

#### 【担い手の育成】

- ・ 農家意向調査では、後継者もあり継続が可能な農家と、継続の意向はあるが労働力に見合った生産に縮小する農家に分かれる傾向にあります。一方、相続税納税猶予制度の適用を受けた農地は、後継者の営農が条件となるため、Uターンなどが増加することが考えられます。このため、定年帰農や新たな参入への支援及び労働力確保の方策を検討する必要があります。
- ・ 農家の労働力不足に対しては援農が有効であり、市民による多様な援農の仕組みづくりを検討する必要があります。
- ・ 農家女性は、農業経営に関して重要な役割を果たしており、家族労働のルールづくり等による労働条件の改善を図る必要があります。また、農産物加工は、農家女性の力が発揮できる場ですが、組織的な取り組みは不十分な状況です。市民との協働による加工等の仕組みを検討することも重要です。

#### 【農産物の流通】

- ・ 農家の販売形態は、直売が半数近くを占めますが、契約栽培、畝売り・株売り、観光農園、

通信販売等多様化する傾向にあります。市民の地場農産物入手意向は高く、スーパーなど日頃買物に利用する場での販売を求めています。そのため、西東京産の農産物をわかりやすく表示し、市民の身近なところで販売する方策を検討する必要があります。

- ・ 特に、人が集まりやすい場所（スーパーだけでなく駅、商店街等を含め）での販売、共同直売など新たな方策を考える必要があります。
- ・ 直売所については、市民は新鮮さ、安さを評価する一方、品揃えや量の不足への不満も高く、品揃えや量を充分供給できる共同直売所の設置も検討する必要があります。
- ・ 食農教育の推進のために、学校給食への供給の拡大も検討する必要があります。

### 【安全なおいしい農産物の供給】

- ・ 市内の農家は、安全性の高い農業を志向しており、これは市民ニーズにも応じたものとなっています。より安全な農産物の生産を促進するためには、減農薬・減化学肥料栽培の普及や新たな技術の導入等による支援を強化する必要があります。

### 【農業関係団体の連携】

- ・ 西東京市内には2つのJA組織があり、市民まつりを機会に合同の取り組みを行っていますが生産者組織間の交流が少ない。そのため、生産者組織の交流、学校給食等の課題に応じた交流を促進していく必要があります。

### 【市民との交流】

- ・ 農家は農産物の販売を通じた市民との交流を求めています。市民は野菜や花づくりの支援、料理や漬物づくりを通じた交流を求めています。市民との交流を促進するためには、農家、市民の相互の情報交換を重視し、農家の持つ生産技術や加工技術を市民の伝える場をつくる必要があります。
- ・ 前述のように、農家の女性の活動を活性化するために、市民の力も活用した取り組みを検討する必要があります。

### 【市民の農業体験の場づくり】

- ・ 市内には市民農園が4カ所、家族農園が1カ所ありますが、市民の農業体験意向は高く現状では不足する状況です。
- ・ 市民農園や家族農園のように、農地を貸した場合は相続税納税猶予制度が適用されないことから、農家が経営として行う体験農園等、新たな形態を検討する必要があります。
- ・ うめ・くり畑の体験活用、ガーデニングや花の摘み取り園、生垣の見本園、公園の樹木を活用した剪定講習など、多様な農業体験の場を検討する必要があります。

### 【農業景観を活かしたまちづくり】

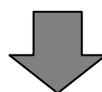
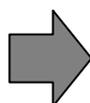
- ・ 市民は農業により作り出される景観（季節感、植木の緑等）を評価している一方、農地へのゴミ捨ての対策が求められており、都市農業の難しさが表れています。そのため、市民に身近な農業、農業景観の価値を周知するとともに、市民と農家が協働で地域の景観や環境を作り出す取り組みを検討する必要があります。

## 2. 西東京市における農業・農地の多面的機能発揮に関わる現状の取り組み

西東京市の農業・農地の課題を解決し、貴重な農地を保全していくために、農業・農地の持つ多面的機能を活かし、農業者や市民、市が連携して都市と農業が共生するまちづくりを進めていく必要があります。

農業振興計画やその他の関連計画での、農業・農地を活かしたまちづくりの多面的機能の取り組みは、以下のようになっています。

農業・農地の課題	多面的機能	現状での取り組み	
農地の保全 生産環境の整備 農業生産の向上 担い手の育成 農産物の流通 安全なおいしい農産物の供給 農業関係団体の連携 市民との交流 市民の農業体験の場づくり 農業景観を活かしたまちづくり	農産物供給機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物認証制度の普及</li> <li>・エコファーマー認定普及</li> <li>・めぐみちゃんブランドの普及</li> <li>・企業、市民との連携による加工品開発</li> <li>・行事と連携した直売の拡大</li> <li>・学校給食の拡大</li> <li>・消費者との交流によるニーズの把握</li> <li>・農業情報の提供</li> <li>・農産物加工の実施</li> <li>・直売等販売の支援実施</li> <li>・地産地消の普及啓発</li> <li>・苗木の無料配布の推進</li> </ul>	
	レクリエーション・コミュニティ機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業体験農園の整備</li> <li>・農業情報の提供</li> <li>・市民農園としての活用</li> <li>・援農ボランティアの育成、活用</li> <li>・農を通じた市民との交流促進</li> <li>・散策ルートの調査・研究と整備</li> </ul>	
	福祉・保健機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑地や農地でのみどりとのふれあいや健康づくり</li> </ul>	
	環境保全機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・剪定枝等のチップ化の支援</li> <li>・環境にやさしい農業の支援</li> <li>・落ち葉の堆肥化やエコクッキング</li> </ul>	
	教育機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校農園の促進</li> <li>・援農ボランティア育成事業の活用</li> <li>・幼児期、小学校低学年の収穫体験</li> <li>・小学校中・高学年の学校農園体験</li> <li>・農産物加工・料理講座の開催</li> <li>・学校給食関係者の交流</li> <li>・農業体験の推進</li> <li>・地産地消の普及啓発</li> <li>・食をとりまく環境の理解</li> <li>・食育ネットワークによる食育の普及啓発</li> </ul>	
	防災機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災農地指定の検討</li> </ul>	
	景観形成・歴史文化 伝承機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農地へのごみ投棄の防止</li> <li>・農地周りの環境美化の推進</li> <li>・農業景観に親しむ散策会の開催</li> <li>・地域の食文化の継承</li> <li>・シンボリックな緑地の保全</li> <li>・花いっぱい運動の推進</li> </ul>	



農業・農地の課題を解決するために、農業・農地の多面的機能を更に発揮し、都市と農業が共生するまちづくりを進めていく。

## (1) 農産物供給機能

取り組みの名称	取り組みの概要
エコファーマー認定普及	現在西東京市では、14名がエコファーマーの認定を受けている。
めぐみちゃんブランドの普及	市民公募により平成17年4月に農産物キャラクターめぐみちゃんが誕生した。 平成20年度、市で、キャラクターが入った野菜袋と結束テープを作成し認定農業者を中心に配付を行った。 今年度、着ぐるみを作成し、市民にアピールを行っている。
企業、市民との連携による加工品開発	今年度、地場産野菜を使ったレシピ集を作成予定である。
行事と連携した直売の拡大	ごみ減量推進課で行っている「りさいくる市」で年数回農友会が野菜の直売を行っている。また、梨組合が毎年8月頃にこもれびホール前で直売会を実施している。
学校給食の拡大	今後、引き続き検討していく。
消費者との交流によるニーズの把握	1年度あたり、3本ほどの交流事業を行っている（レクリエーション・コミュニティ機能欄参照）。この中で都市農業や安全安心な農産物へのニーズの高さを感じている。
農業情報の提供	農産物マップを作成した。（レクリエーション・コミュニティ機能欄参照）
農産物加工の実施	ジャム（一部NPO団体）、カステラ（一部民間）を製作した。
直売等販売支援実施	平成18年3月に各直売所を掲載した農産物マップを作成した。 旧保谷市で直売所設置補助を行っていた。（上限5万円）
地産地消の普及啓発	今年度、市内産野菜を使った料理実習会を行った。（H22.1.30）
苗木の無料配布の推進	みどり公園課において、年1回市民に苗木の無料配布を行っている。

## (2) レクリエーション・コミュニティ機能

取り組みの名称	取り組みの概要
農業体験農園の整備	平成20年度に北町に農業体験農園が開設された。 市では、開設に係る補助金（上限200万円）を出している。
農業情報の提供	H18、H21（予定） 農産物マップを作成した。
農業マップの作成	平成18年3月に各直売所を掲載した農産物マップを作成した。 また、今年度更新を予定している。
市民農園としての活用	市街化農地を市民農園として活用している。
援農ボランティアの育成、活用	毎年、2回の講義と10回の実習を経て援農ボランティアを育成している。 これまで54名を育成。今年度は7名となっている。
農を通した市民との交流促進	①農業景観散策会を1回開催した。 農業者と生活者の交流、都市農業の担う役割についてなどの学習を目的に農産物マップの散策コースを活用して開催した。 今年度は、10月17日（土）に開催した。 ②食とはたけの学校を4回開催した。（平成20年度 3回、平成21年度 1回） ③食育推進事業（無農薬野菜を作ろう）を開催した。（平成21年9月 種蒔き、平成21年11月 日本産ほうれん草収穫、平成21年12月 大根収穫） ④市内産野菜活用事業（クッキング講座）を1回開催した。（1/30）
散策ルート of 調査・研究と整備	平成17年度に公園緑地課（西東京市自然を見つめる会協力）が調査、研究し、これを農産物マップ等で活用している。

## (3) 福祉・保健機能

取り組みの名称	取り組みの概要
緑地や農地でのみどりとのふれあいや健康づくり	① 農業景観散策会を開催した。（レクリエーションコミュニティ機能 農を通した市民との交流促進参照） ② 食とはたけの学校を開催した。（レクリエーションコミュニティ機能 農を通した市民との交流促進参照）

#### (4) 環境保全機能

取り組みの名称	取り組みの概要
剪定枝等のチップ化の支援	H17、18年度、市内植木農家を中心にチップ化の取り組みを行った。
環境にやさしい農業の支援	西東京市安全安心農業推進事業にて、堆肥等を購入する費用の2分の1に相当する額の補助金を出している。(上限3万円、但し西東京市認定農業者は上限5万円)
落葉の堆肥化やエコクッキング	企画政策課、環境保全課で20、21年度に実施している。

#### (5) 教育機能

取り組みの名称	取り組みの概要
学校農園の促進	小学校8校で実施している。中学校は未実施である。
援農ボランティア育成事業の活用	養成講座終了後のボランティアが各農家で引き続き活躍している。今後は、マッチング事業に取り組む予定である。
幼児期、小学校低学年の収穫体験	市内児童館(センター)、幼児サークル、保育園で地場産いもほり体験を行っている。 学校農園で収穫体験し、学校給食で活用している。
小学校中・高学年の学校農園体験	同上
農産物加工・料理講座の開催	家庭科で料理実習等を行っている。
学校給食関係者の交流	月1回栄養士会に教育委員会も出席している。 農家と栄養士が個別に交流している。
農業体験の推進	学校農園をすすめている。
地産地消の普及啓発	「学校給食献立表」(月1回程度発行)にて地場産農産物納入農家を掲載している。 給食時間に放送を行っている。
食をとりまく環境の理解	事業を通して理解促進を図っている。
食育ネットワークによる食育の普及啓発	今後も関連セクションと連携して検討し、実施していく。

## (6) 防災機能

取り組みの名称	取り組みの概要
防災農地指定の検討	平成19年度に両JAと災害時における協力に関する協定書を結ぶ。 現在、106ヶ所、約131,000㎡を指定している。

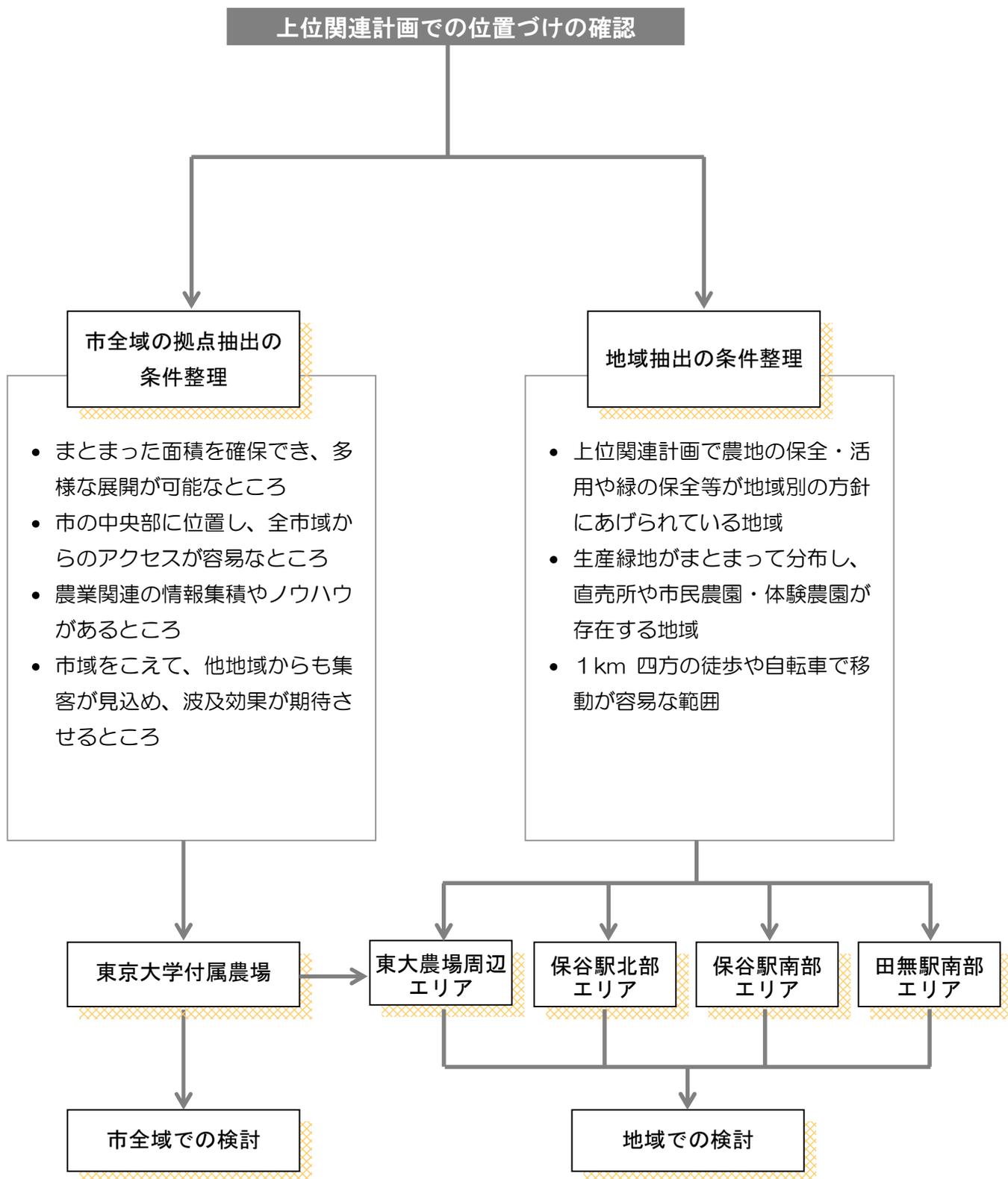
## (7) 景観形成・歴史文化伝承機能

取り組みの名称	取り組みの概要
農地へのごみ投棄の防止	今後、方策を検討していく。(農業振興計画事業)
農地周りの環境美化の推進	同上
農業景観に親しむ散策会の開催	毎年、農産物マップの散策コースを活用して開催している。 今年度は、10月17日(土)に開催した。
地域の食文化の継承	H19、20年度に旧保谷市域の伝統の小麦を栽培し、うどん作りを実施した。(全7回)
シンボリックな緑の保全	緑地保全地域を2箇所指定している。
花いっぱい運動の推進	みどり公園課で実施している。

### 3. 西東京市都市と農家が共生するまちづくりのモデル検討 地域の現況特性

#### (1) モデル検討地域の抽出

西東京市都市と農家が共生するまちづくりのモデル検討地域は以下のような条件で抽出しています。





## 2) モデル検討地域の現況特性

モデル検討地域の現況と特性は以下のようになっています。

### ■モデル検討地域の現況と特性の整理

項目	保谷駅北部エリア	保谷駅南部エリア
上位関連計画での位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>農地（特に生産緑地）や樹林地や緑地保全地域の継続、神社仏閣の緑の保全（み）</li> <li>川沿いの農地・屋敷林・雑木林の保全（都）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農地（特に生産緑地）や樹林地や緑地保全地域の継続と緑の保全（み）</li> <li>川沿いにある碧山森緑地保全地域や農地・屋敷林などの保全（都）</li> </ul>
面積	<ul style="list-style-type: none"> <li>約 124ha</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>約 111ha</li> </ul>
生産緑地	<ul style="list-style-type: none"> <li>43 ヶ所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>36 ヶ所</li> </ul>
生産緑地の作物（現地での視察による）	<ul style="list-style-type: none"> <li>野菜 36 ヶ所</li> <li>花 8 ヶ所</li> <li>果実 9 ヶ所</li> <li>植木 4 ヶ所</li> <li>芝畑 2 ヶ所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>野菜 18 ヶ所</li> <li>花 2 ヶ所</li> <li>果実 14 ヶ所</li> <li>植木 3 ヶ所</li> <li>芝畑 2 ヶ所</li> </ul>
生産緑地の活用状況（現地での視察による）	<ul style="list-style-type: none"> <li>全面で耕作 40 ヶ所</li> <li>部分作付け 2 ヶ所</li> <li>耕作無し 5 ヶ所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全面で耕作 26 ヶ所</li> <li>部分作付け 5 ヶ所</li> <li>耕作無し 2 ヶ所</li> </ul>
市民農園、農業体験農園	<ul style="list-style-type: none"> <li>北町市民農園（33 区画）</li> <li>ファーマーズ T（56 区画）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>富士町市民農園（130 区画）</li> <li>トミー倶楽部（100 区画）</li> </ul>
直売所	<ul style="list-style-type: none"> <li>11 ヶ所（野菜 9、花 1、果実 1）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>14 ヶ所（野菜 9、花 1、果実 4）</li> </ul>
学校農園	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 ヶ所（保谷第 1 小学校）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4 ヶ所（碧山小学校、東小学校、保谷小学校、泉小学校）</li> </ul>
公園緑地等	<ul style="list-style-type: none"> <li>18 ヶ所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7 ヶ所</li> </ul>
散策コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 ヶ所（まちの里山コースの全体）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2 ヶ所（木もれ日の道コースの一部、屋敷林と畑のコースの一部）</li> </ul>
災害時協力農地	<ul style="list-style-type: none"> <li>9 ヶ所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4 ヶ所</li> </ul>
公共施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>5 ヶ所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>12 ヶ所</li> </ul>
特性のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>野菜の他に花が比較的多く、農地と屋敷林、公園、緑地保全地域がまとめて緑が多い印象を与えている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>野菜の他に果樹園が比較的多く、公共施設の中に農地、屋敷林、緑地保全地域が存在する</li> </ul>

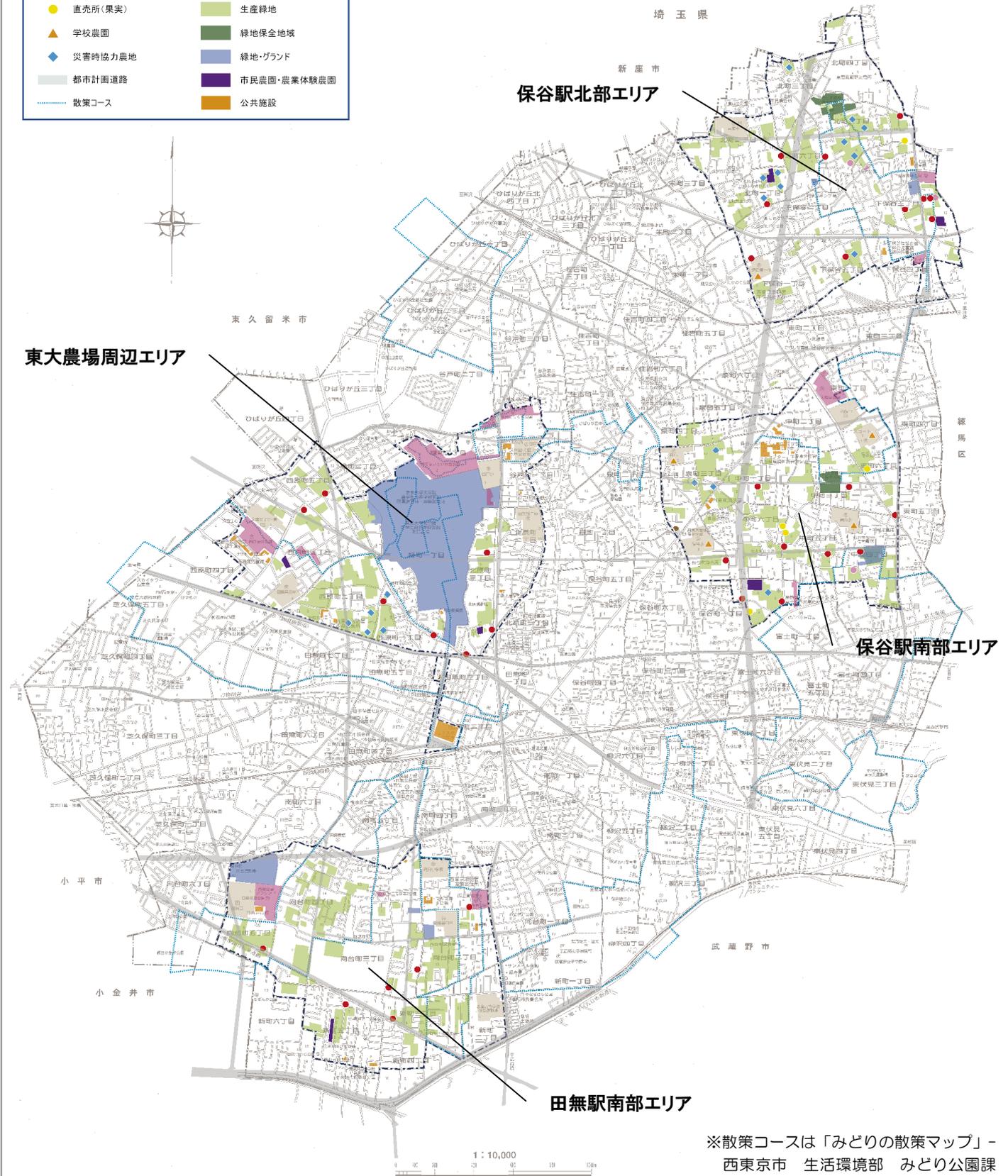
※（都）は都市計画マスタープラン、（み）はみどりの基本計画、（基）は後期基本計画、（食）は食育推進計画を表す  
 ※生産緑地の作物、活用状況は概況と特性を把握するために、現地で視察したものであり、正確なデータとして記録するものではない  
 ※散策コースは「みどりの散策マップ」-西東京市 生活環境部 みどり公園課 平成 20 年 5 月発行による  
 ※1ha=10,000 m<sup>2</sup>

項目	田無駅南部エリア	東大農場周辺エリア
上位関連計画での位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 農地（特に生産緑地）や樹林地の保全（み）</li> <li>● 農地が比較的多く残る現状を活かして「農とくらしの共存」と市民が親しみ利用できる活用を目指す（都）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 農地（特に生産緑地）や樹林地の保全（み）</li> <li>● 今あるみどりの資源を大切に保全し、みどり豊かな地域づくりを目指し、公園や農地などの環境資源を活かして、自然豊かなまちづくりを進める（都）</li> </ul>
面積	● 約 125ha	● 約 143ha
生産緑地	● 22ヶ所	● 23ヶ所
生産緑地の作物（現地での視察による）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 野菜 9ヶ所</li> <li>● 花 3ヶ所</li> <li>● 果実 2ヶ所</li> <li>● 植木 17ヶ所</li> <li>● 芝畑 0ヶ所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 野菜 20ヶ所</li> <li>● 花 0ヶ所</li> <li>● 果実 2ヶ所</li> <li>● 植木 1ヶ所</li> <li>● 芝畑 0ヶ所</li> </ul>
生産緑地の活用状況（現地での視察による）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全面で耕作 22ヶ所</li> <li>● 部分作付け 0ヶ所</li> <li>● 耕作無し 0ヶ所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全面で耕作 23ヶ所</li> <li>● 部分作付け 0ヶ所</li> <li>● 耕作無し 0ヶ所</li> </ul>
市民農園、農業体験農園	● 新町市民農園（93区画）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 西原市民農園（53区画）</li> <li>● きたつばら（83区画）</li> </ul>
直売所	● 4ヶ所（野菜4）	● 7ヶ所（野菜7）
学校農園	● 0ヶ所	● 0ヶ所
公園緑地等	● 17ヶ所	● 8ヶ所
散策コース	● 2ヶ所（鎮守の森とカッコウのコースの全体、きつね山コースの一部）、多摩湖自転車道路	● 2ヶ所（東大農場・演習林のコース全体、西原自然公園コースの一部）
災害時協力農地	● 0ヶ所	● 5ヶ所
公共施設	● 12ヶ所	● 12ヶ所
特性のまとめ	● 植木が大半を占めており、多摩湖自転車道路を軸に分布している	● 東大農場を中心に、比較的大きな規模の公園やまとまった農地が存在し、緑が豊かな印象を与えている。

※（都）は都市計画マスタープラン、（み）はみどりの基本計画、（基）は後期基本計画、（食）は食育推進計画を表す  
 ※生産緑地の作物、活用状況は概況と特性を把握するために、現地で視察したものであり、正確なデータとして記録するものではない  
 ※散策コースは「みどりの散策マップ」-西東京市 生活環境部 みどり公園課 平成20年5月発行による  
 ※1ha=10,000㎡

# モデル検討地域現況図

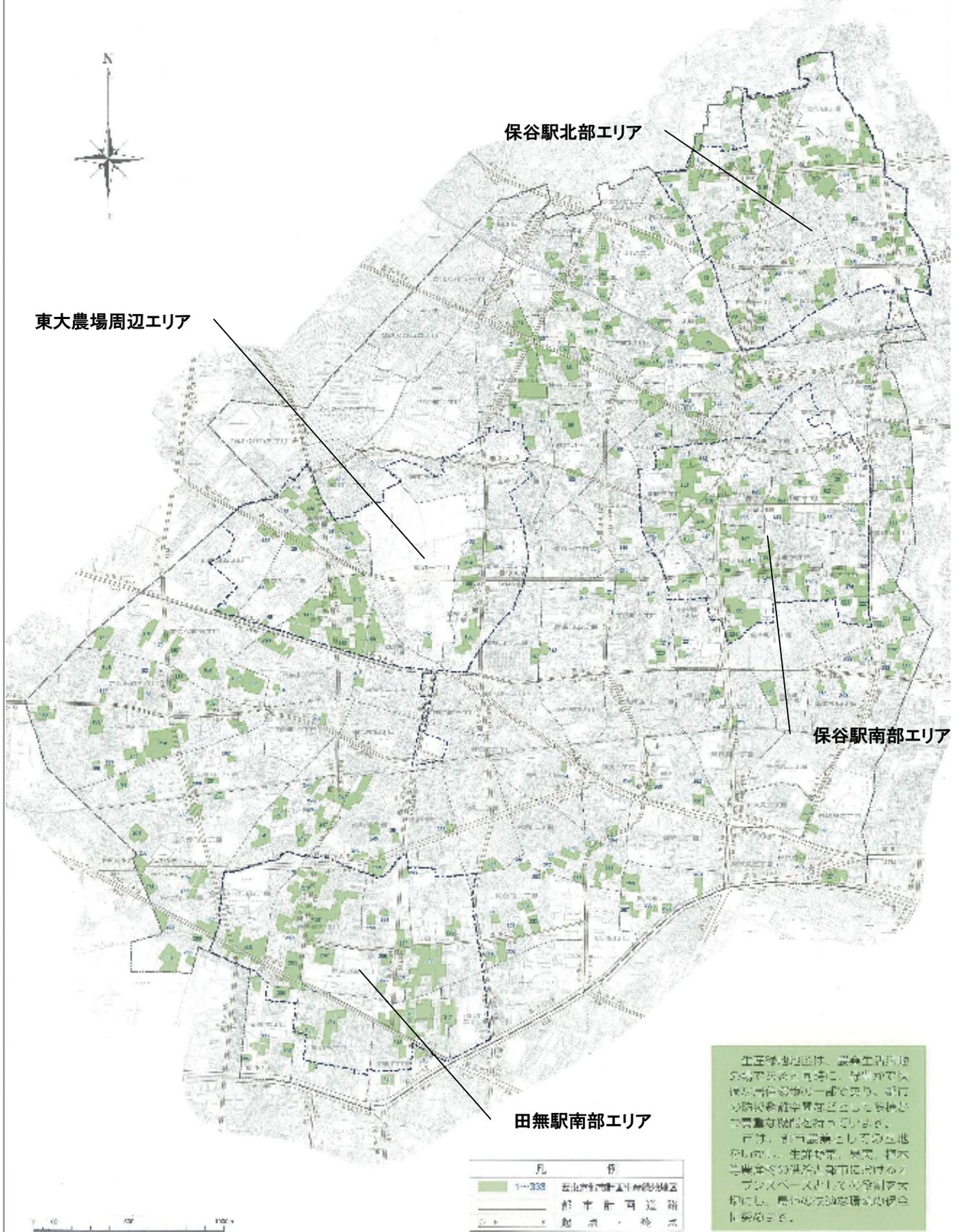
凡 例	
● 直売所(野菜)	■ 小中学校
● 直売所(花)	■ 公園等
● 直売所(果実)	■ 生産緑地
▲ 学校農園	■ 緑地保全地域
◆ 災害時協力農地	■ 緑地・ランド
■ 都市計画道路	■ 市民農園・農業体験農園
⋯ 散策コース	■ 公共施設



※散策コースは「みどりの散策マップ」- 西東京市 生活環境部 みどり公園課 平成 20 年 5 月発行による

# ■ 西東京市都市計画生産緑地地区指定図

西東京市都市計画生産緑地地区 約138.75ha 平成29年12月11日告示



保谷駅北部エリア

東大農場周辺エリア

保谷駅南部エリア

田無駅南部エリア

凡 例	
<span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:lightgreen;"></span>	1-338 西東京市都市計画生産緑地地区
<span style="display:inline-block; width:15px; border-bottom:1px solid black;"></span>	都市計画道路
<span style="display:inline-block; width:15px; border-bottom:1px dashed black;"></span>	起点・終点

生産緑地地区は、都市計画区域の農業地帯に相当し、都市計画区域の用途地域の一部であり、都市の防犯・避難空間を確保するとともに、農業の持続的な発展を図るため、都市計画として指定された地域である。生産緑地は、都市計画区域の農業地帯に相当し、都市計画区域の用途地域の一部であり、都市の防犯・避難空間を確保するとともに、農業の持続的な発展を図るため、都市計画として指定された地域である。

■ 保谷駅北部エリア現況図



凡 例	
● 直売所(野菜)	■ 小中学校
● 直売所(花)	■ 公園等
● 直売所(果実)	■ 生産緑地
▲ 学校農園	■ 緑地保全地域
◆ 災害時協力農地	■ 緑地・グランド
— 都市計画道路	■ 市民農園・農業体験農園
⋯ 散策コース	■ 公共施設

※散策コースは「みどりの散策マップ」-西東京市 生活環境部 みどり公園課 平成 20 年 5 月発行による

■ 保谷駅南部エリア現況図



凡 例	
● 直売所(野菜)	小中学校
● 直売所(花)	公園等
● 直売所(果実)	生産緑地
▲ 学校農園	緑地保全地域
◆ 災害時協力農地	緑地・ランド
— 都市計画道路	市民農園・農業体験農園
⋯ 散策コース	公共施設

※散策コースは「みどりの散策マップ」-西東京市 生活環境部 みどり公園課 平成 20 年 5 月発行による

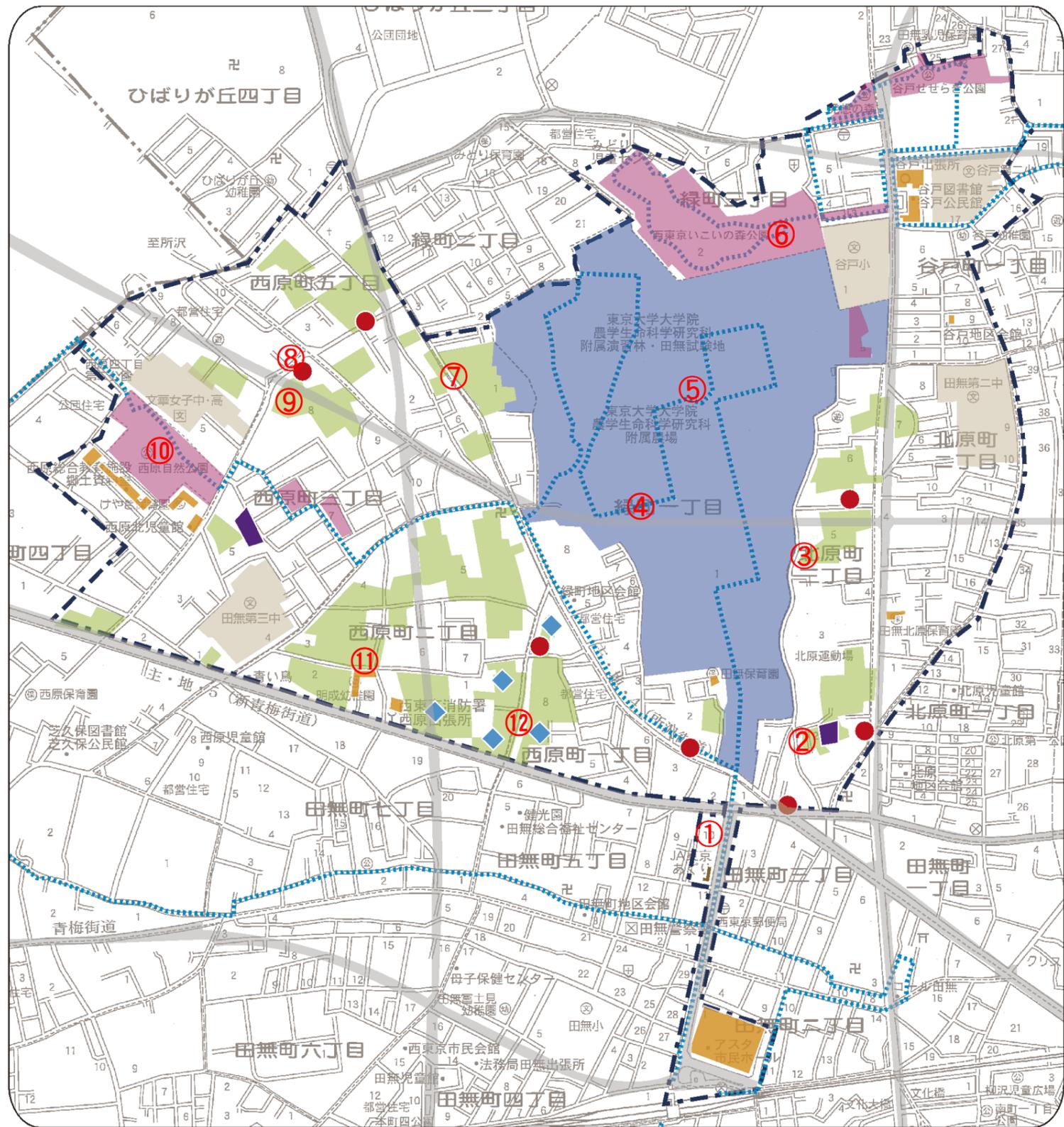
■ 田無駅南部エリア現況図



凡 例	
● 直売所(野菜)	■ 小中学校
● 直売所(花)	■ 公園等
● 直売所(果実)	■ 生産緑地
▲ 学校農園	■ 緑地保全地域
◆ 災害時協力農地	■ 緑地・グラウンド
— 都市計画道路	■ 市民農園・農業体験農園
⋯ 散策コース	■ 公共施設

※散策コースは「みどりの散策マップ」-西東京市 生活環境部 みどり公園課 平成 20 年 5 月発行による

■ 東大農場周辺エリア現況図



0 100 200 400 1000m

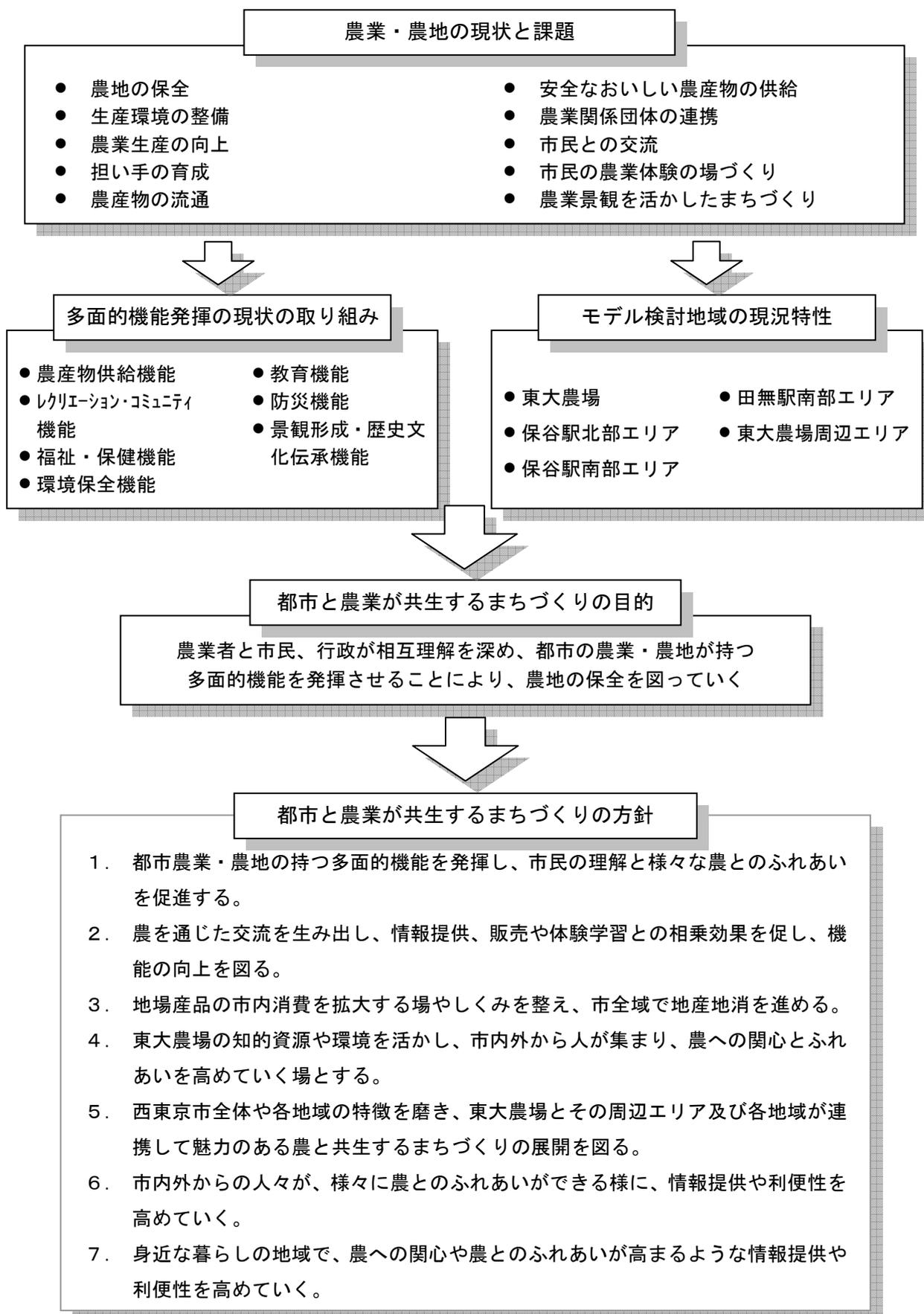


凡 例	
● 直売所(野菜)	■ 小中学校
● 直売所(花)	■ 公園等
● 直売所(果実)	■ 生産緑地
▲ 学校農園	■ 緑地保全地域
◆ 災害時協力農地	■ 緑地・グランド
■ 都市計画道路	■ 市民農園・農業体験農園
⋯ 散策コース	■ 公共施設

※散策コースは「みどりの散策マップ」-西東京市 生活環境部 みどり公園課 平成20年5月発行による

## 4. 西東京市都市と農業が共生するまちづくりの目的と方針

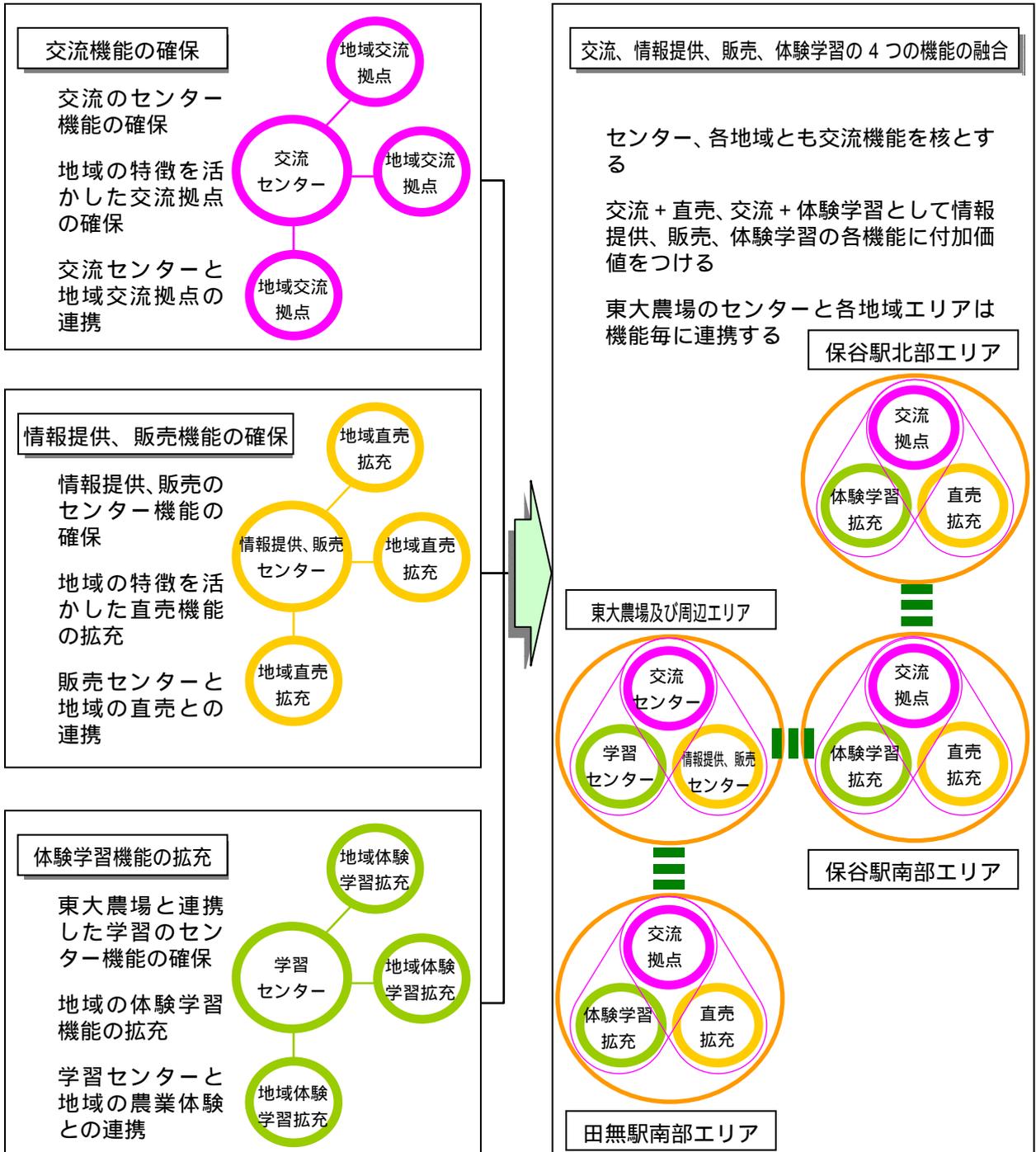
1～3を踏まえて、西東京市の都市と農業が共生するまちづくりの目的と方針について、以下のように整理します。



## 5. 西東京市都市と農業が共生するまちづくりプラン

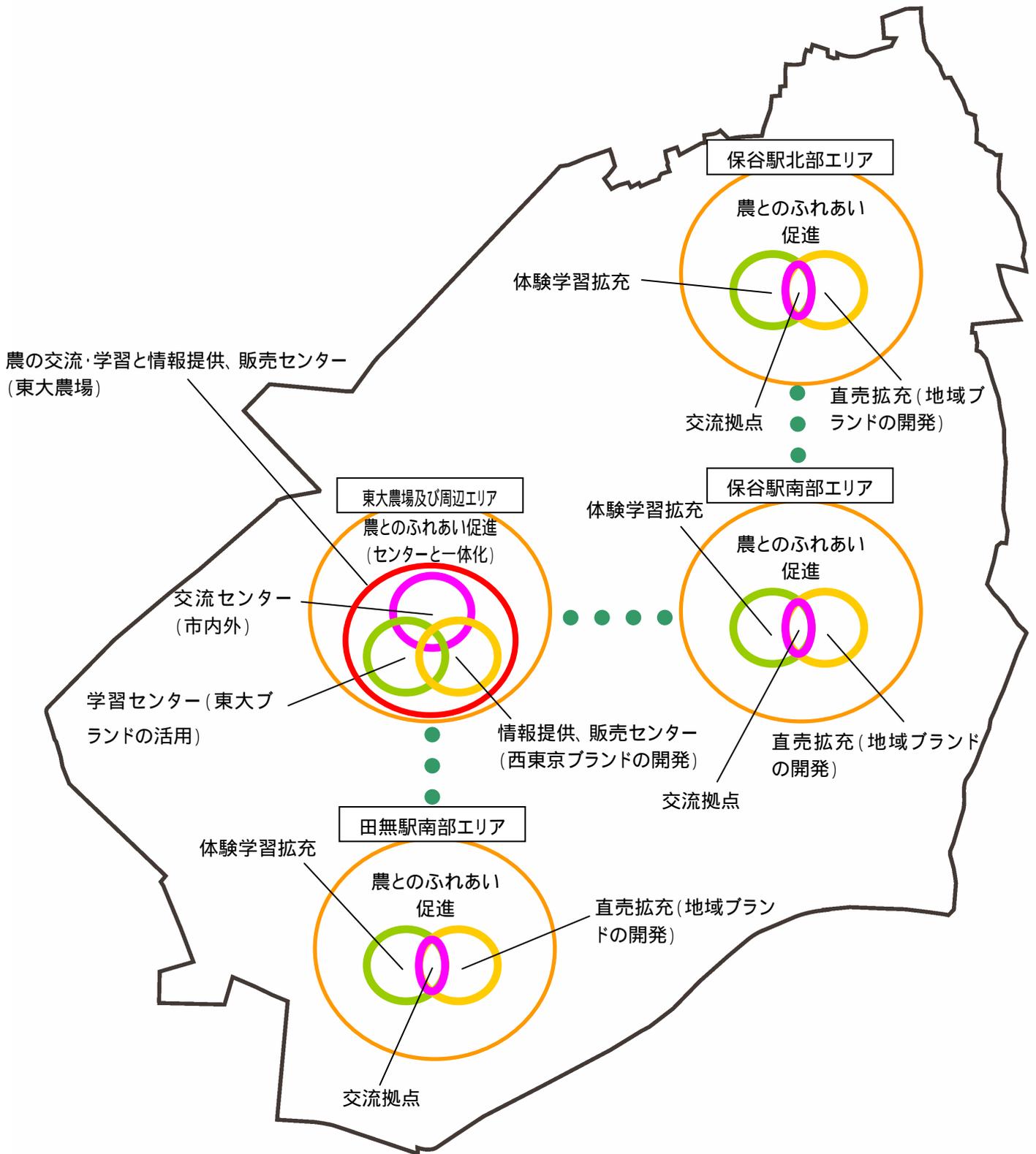
### (1) 西東京市での都市と農業が共生するまちづくりの基本的考え方

西東京市での都市と農業が共生するまちづくりの基本的な考え方は、西東京市都市と農業が共生するまちづくりの方針を踏まえて、以下のような展開を基本とします。



西東京市での都市と農業が共生するまちづくりの基本的な展開の概念と全体的展開イメージを示します。

西東京市都市と農業が共生するまちづくり・基本的展開概念図





## (2) 西東京市での都市と農業が共生するまちづくりのリーディングプロジェクト案

西東京市での都市と農業が共生するまちづくりの基本的考え方と展開イメージを踏まえると、

東大農場：交流、情報提供、販売、体験学習の4つの機能を融合させるセンター機能の確保

各地域エリア：交流、直売、体験学習機能を融合させながら拡充していくための交流拠点の確保がハード（施設設備）面での主要なテーマとなります。

また、西東京市での多面的機能発揮に関わる現状の取り組みやモデルプラン検討地域の現状特性を踏まえ、地域内でセンターや交流拠点と連携した農とのふれあい促進のためには、

東大農場周辺エリア：東大農場のセンター機能と連携した多面的機能発揮のソフト（企画運営）展開

各地域エリア：交流拠点や地域の特徴を活かした多面的機能発揮のソフト（企画運営）展開が主要なテーマとなります。

以上のことより、ハード、ソフトの両面から主要なテーマを実現化させるために「リーディングプロジェクト」を次のように位置づけます。

### リーディングプロジェクトの位置付け

「西東京市都市と農業が共生するまちづくりモデルプラン」を実現するための骨格となるプロジェクト

「西東京市都市と農業が共生するまちづくりモデルプラン」を実現するために、優先的にすすめるプロジェクト

「西東京市都市と農業が共生するまちづくりモデルプラン」を実現するために、先導的にすすめるプロジェクト

### ハードに係るリーディングプロジェクトの取り組みの視点

市全域と地域の役割分担が分かり易く相乗効果を生む

対外的に発信力があり、発展性が見込まれる

地域の特徴を活かし、地域内でのまとまりが生まれる



テーマ	プロジェクト名	概要
センター	『農の交流・学習と情報提供、販売センター』	東大農場の教育機能を活かしつつ、交流と情報提供、販売機能を新たに付加して、多面的な農のセンターを作ります。
地域拠点	『地域の農とふれあう交流拠点』	各地域の特徴や資源を活かした交流拠点を設け、地域の農の顔を作ります。

ソフトに係るリーディングプロジェクトの絞り込みの視点  
 農業関係者以外の人にも幅広く知ってもらえ、波及効果が高い。  
 農業・農地の多面的機能発揮の理解促進につながる。  
 西東京市での取り組みの特徴を活かし、促進効果が高い。  
 既存の取り組みを発展させるもので、展開が比較的容易である。



テーマ	プロジェクト名	概要
イベント	『あなたのまちのめぐみちゃんマーケット』	東大農場のセンターや各エリアで、一年間どこかで、めぐみちゃんマーケット（移動型ファーマーズマーケット）を行います。
体験学習	『生涯農を学べるアカデミー』	東大農場の「農のアカデミー」の体験学習や人材育成の機能を市全域に波及させるしくみを作ります。
環境	『緑地の落葉からはじめる農の循環』	公園や緑地の落葉を使って堆肥を作り、農家に提供し、野菜がもらえるしくみを作ります。
福祉	『ハンディキャプトと一緒に農のふれあい』	東大農場のセンターや各エリアで、ハンディキャプトでも農業体験ができるモデルを作ります。
防災	『身近な農地の防災学習』	PTA や学校教育の一環として、周辺の農地の防災機能を学習します。
地産地消	『みんなでつくるめぐみちゃん弁当』	地産地消に取り組む農家や学校、商店などをマップで紹介し、共同でめぐみちゃん弁当を開発します。
散歩道	『緑と農のオープンガーデン』	農地や屋敷林の景観や直売所の紹介を、既存のオープンガーデンの取り組みに組み入れていきます。

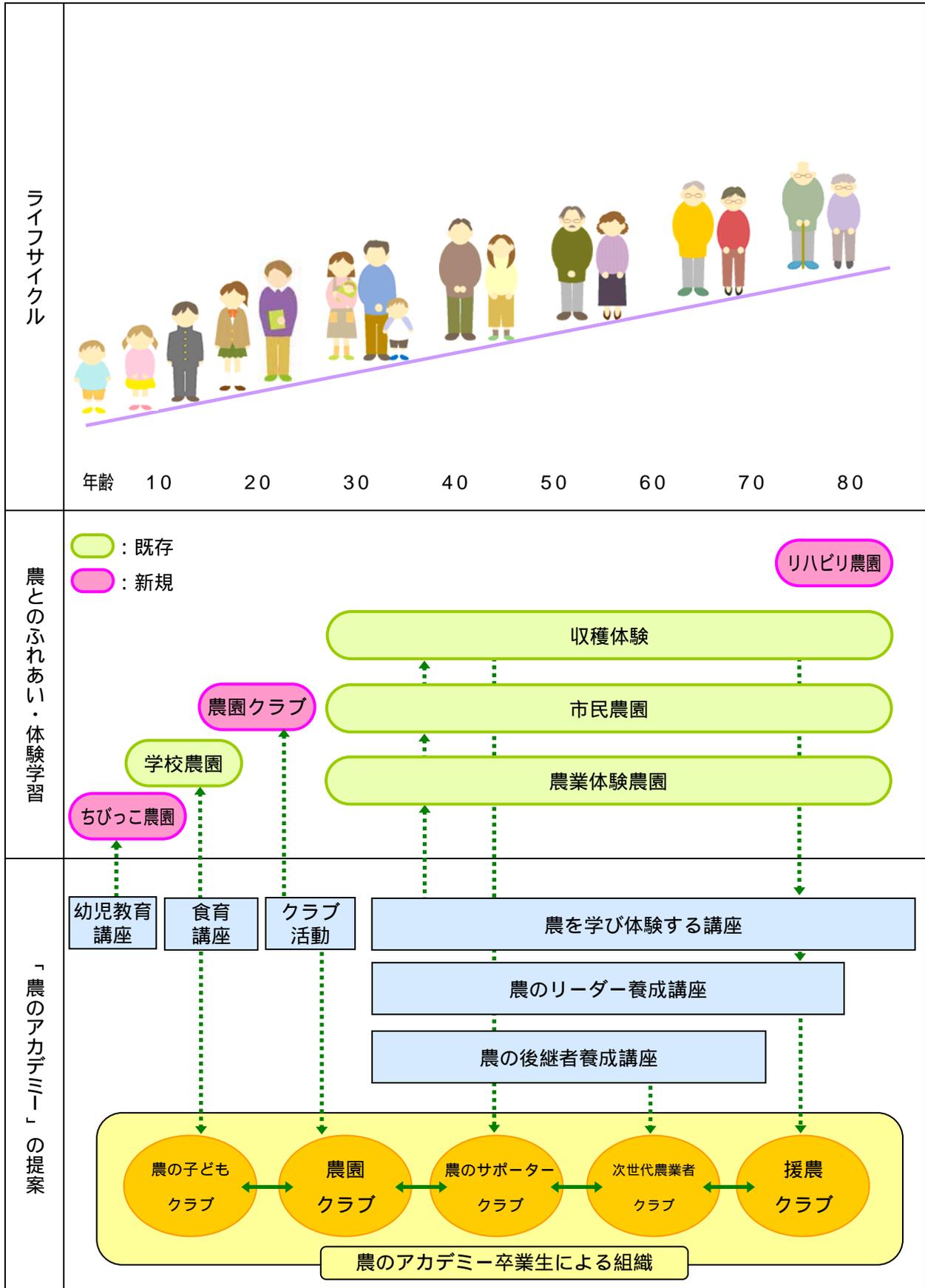
『あなたのまちのめぐみちゃんマーケット』

農産物の旬をもとに、めぐみちゃんマーケットのイベントの時期の設定が考えられます。

名前		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
イベント	収穫祭								★					
	春野菜、夏野菜、秋冬野菜マーケット	春野菜マーケット					夏野菜マーケット				秋冬野菜マーケット			
	フラワーマーケット			フラワーマーケット			フラワーマーケット				フラワーマーケット			
	フルーツマーケット					フルーツマーケット			フルーツマーケット					
野菜	キャベツ	■				■					■			
	白菜	■									■			
	ブロッコリー	■									■			
	カリフラワー										■			
	ホウレンソウ	■									■			
	小松菜	■												
	ナス						■				■			
	キュウリ						■				■			
	トマト						■				■			
	トウモロコシ						■				■			
	枝豆						■				■			
	大根	■				■					■			
	ニンジン	■						■				■		
	ジャガイモ	■						■				■		
	サトイモ	■						■				■		
	サツマイモ	■						■				■		
	タマネギ	■												
果	梨								■					
	ブドウ								■					
	栗								■					
	柿								■					
	梅											■		
	キウイ											■		
	りんご								■					
実	いちご								■					
	サルビア、ペコニア					■								
	マリー・ゴールド					■								
	ヒマワリ、コスモス、カンナ、ダリア					■								
	パンジー										■			
	ハボタン										■			
	エリシウム										■			
	ストック、デルビニューム、石竹、ハーペナ										■			
	デージー		■											
	マーガレット、白妙菊、芝桜			■										
ヒポエステス				■										

『生涯農を学べるアカデミー』

「生涯農を学べるアカデミー」は、ライフサイクルに対応した、農の体験学習ができ、人材の組織化も行うしくみを考えます。



### (3) 東大農場及び周辺エリアでの都市と農業が共生するまちづくりの展開案

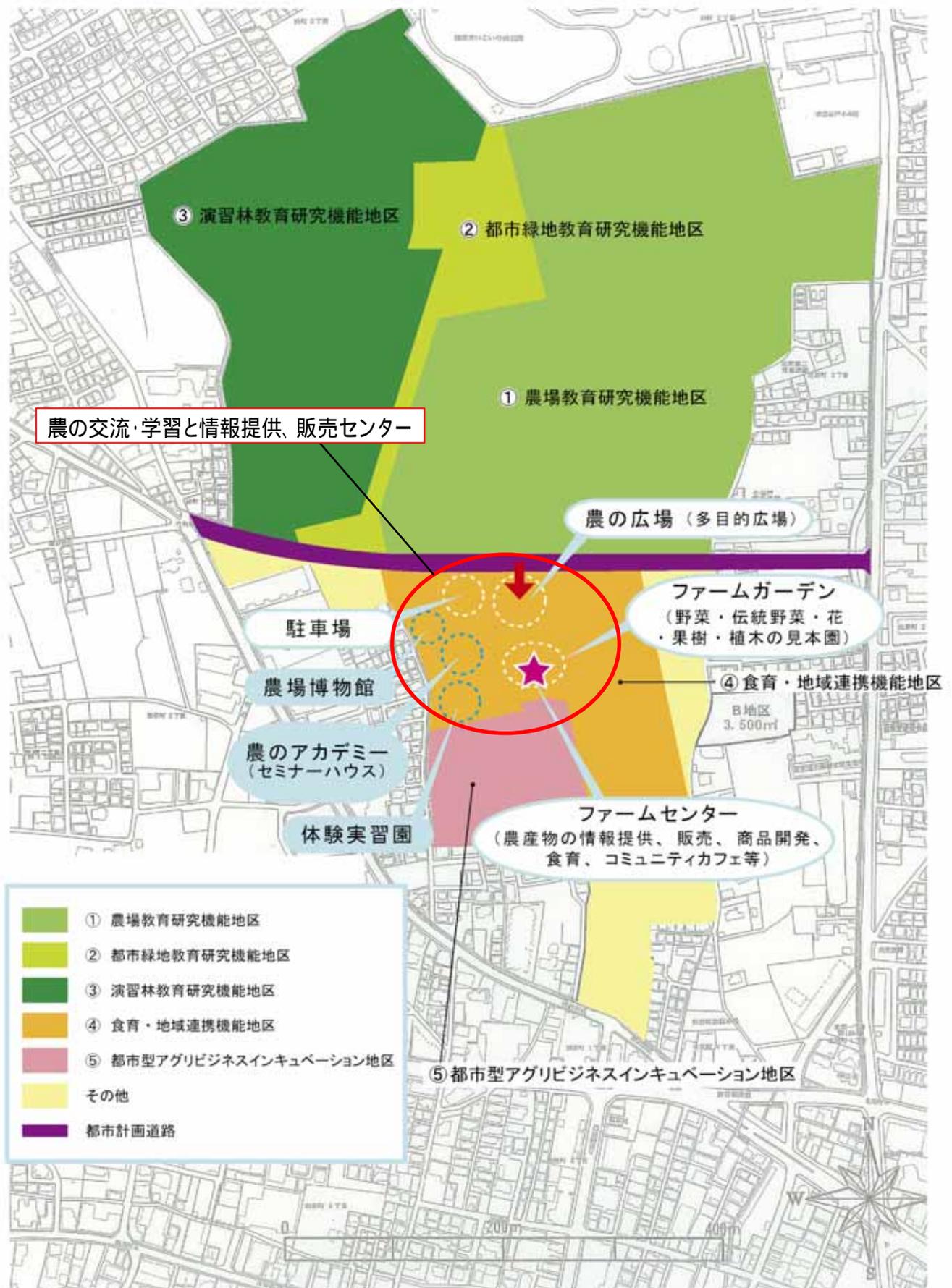
#### 1) 東大農場での展開案

東大農場での多面的機能向上及びリーディングプロジェクトの展開案は以下のようになります。

多面的機能	多面的機能向上及びリーディングプロジェクトの展開案
農産物供給機能  センター  イベント 地産地消	<u>農産物の情報提供、販売の拠点</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内農産物の情報提供と販売</li> <li>多摩地域農産物特産品の情報提供</li> </ul> <u>農の商品開発拠点</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>ブランド開発</li> <li>伝統野菜の継承・復活</li> </ul> <u>収穫祭、月間朝市、環境マーケット</u> <u>めぐみちゃん弁当開発</u>
レクリエーション・ コミュニティ機能 センター	<u>農とのふれあい拠点</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>ファーム・ガーデン（野菜、花、果樹・植木の見本園）</li> <li>コミュニティカフェ</li> </ul>
福祉・保健機能  福祉	<u>食育の拠点</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>相談、情報発信、科学的検証、模擬実験</li> </ul> <u>園芸療法のセラピーガーデン</u> <u>福祉的效果の検証、研究</u> <u>ハンディキャプトモデル農園</u>
環境保全機能	<u>ヒートアイランド抑制効果の研究、デモンストレーション</u> <u>資源循環の拡充、デモンストレーション</u>
教育機能 体験学習	<u>農のアカデミー</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>農の幼児教育</li> <li>若者の農のクラブ</li> <li>農を学び体験する講座</li> <li>農のリーダー養成講座</li> <li>農の後継者養成講座</li> <li>農のフォーラム、交流イベント</li> <li>農のアカデミー卒業生による組織化</li> </ul>
防災機能	<u>農地の防災機能の研究、デモンストレーション</u>
景観形成・歴史文化 伝承機能  散歩道	<u>農の博物館</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>農の道具、技術、民俗・文化の伝承</li> <li>市域から多摩地域、練馬など広域展開</li> </ul> <u>農の景観ライブラリー</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>郷土景観の情報発信</li> <li>農の景観の記録保存</li> </ul> <u>西東京・緑と農のオープンガーデン紹介</u>

：ハードのリーディングプロジェクト、      ：ソフトのリーディングプロジェクト

東大農場 農の交流・学習と情報提供、販売センター概念図



## 2) 東大農場周辺エリアの展開案

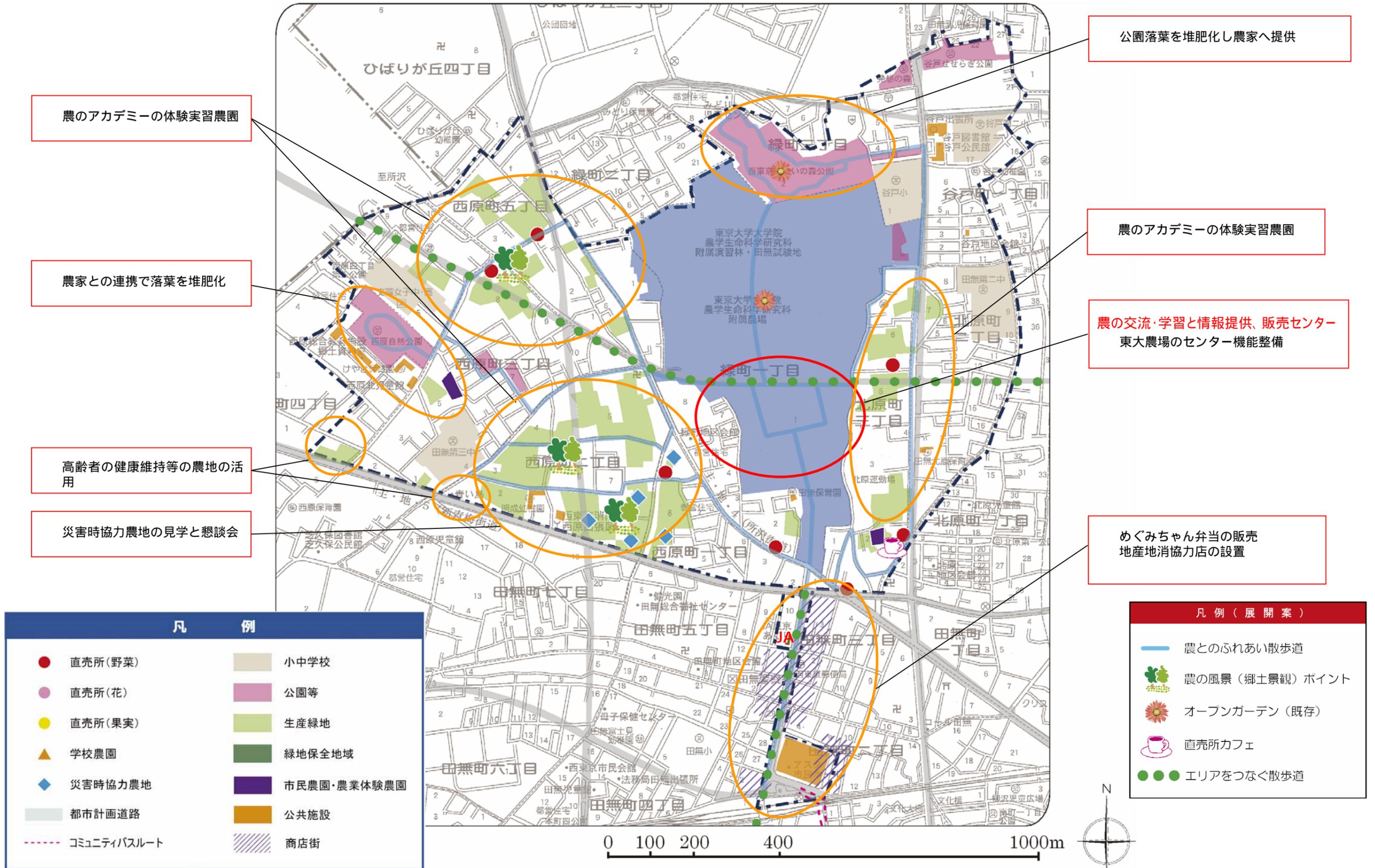
### エリアの特徴を活かした展開方針

東大農場での情報提供、販売機能と連携した農の発信ゾーンとして展開します。  
 東大農場での交流機能と連携した、農とのふれあいゾーンとして展開します  
 東大農場の教育機能と連携した、農の体験ゾーンとして展開します

多面的機能	多面的機能向上及びリーディングプロジェクトの展開案
農産物供給機能 地産地消	東大農場の情報提供、販売拠点から田無駅までを地産地消の発信ゾーンとします 商店街での地産地消協力店の設置やめぐみちゃん弁当販売
レクリエーション・ コミュニティ機能 散歩道	東大農場の交流拠点と連携した、農とのふれあいゾーンを展開します 東大農場の拠点から、周辺の農地を巡る農とのふれあい散歩道を設定する
福祉・保健機能 福祉	福祉施設と連携した、農地の活用を進めます 高齢者の健康維持や障害者のリハビリとしての農地の活用を検討する
環境保全機能 環境	雑木林や屋敷林、公園の落葉の堆肥化など農が介在する資源循環を進めます 西原自然公園の落葉を受け入れ堆肥化する協力農家を増やす いこいの森公園の堆肥センターによる堆肥を活用する協力農家を増やす
教育機能 体験学習	東大農場の農のアカデミーとの連携による体験実習農園を展開します 東大農場での農のアカデミーの一環での体験実習農園としての活用をする
防災機能 防災	地域住民とともに、防災農地の役割を共有していきます 地域住民、農家、市による災害時協力農地の役割や農地の防災機能について見学と懇談の会を行う
景観形成・歴史文化 伝承機能 散歩道	東大農場の景観と一体の農の風景と地域の歴史文化を守り、継承していきます 農の風景ポイント（郷土景観）をオープンガーデンの取り組みに組み入れる。 オープンガーデンや直売所を巡る農とのふれあい散歩道を設ける

: ソフトのリーディングプロジェクト

東大農場周辺エリアの展開イメージ



## (4) 各地域エリアでの都市と農業が共生するまちづくりの展開案

### 1) 保谷駅北部エリアの展開案

#### エリアの特徴を活かした展開方針

花を前面に出した情報発信と展開をします。

花と農と緑がつながり、彩りあるまちづくりを進めます。

農との多様なふれあいと体験ができるまちづくりを進めます。

多面的機能	多面的機能向上及びリーディングプロジェクトの展開案
農産物供給機能 イベント 地産地消	花、野菜、果物の季節感あふれる農の魅力を伝えます めぐみちゃんマーケットを開催する ● 直売所の旬な情報提供を行う 地場産農産物を学校給食へ取り入れる
レクリエーション・ コミュニティ機能 地域拠点	花の拠点をつくり、直売所、生産緑地、緑地保全地域などをつなげます 花の体験農園の場を設ける 花の直売所カフェをつくる ● 果物の収穫体験の場を拡充する
福祉・保健機能 福祉	健康づくりやお年寄りの休憩スポット、障害者受入れなど農の活用を広げます 高齢者の健康維持や障害者のリハビリとしての農地の活用を検討する
環境保全機能 環境	雑木林や屋敷林、公園の落葉の堆肥化など農が介在する資源確保を進めます 公園、緑地保全地域の落葉を受け入れ堆肥化する協力農家を増やす
教育機能 体験学習	花を活かしたガーデニングや各年代に応じた農業体験の場と機会を拡充します ● 花を活かしたガーデニング講座を設ける 幼児対象のちびっこ農園、小中学校対象の学校農園を拡充する
防災機能 防災	地域住民とともに、防災農地の役割を共有していきます 地域住民、農家、市による災害時協力農地の役割や農地の防災機能について見学と懇談の会を行う
景観形成・歴史文化 伝承機能 散歩道	農の風景と地域の歴史文化を守り、継承していきます 農の風景（郷土景観）ポイントをオープンガーデンの取り組みに組み入れる オープンガーデンや直売所を巡る農とのふれあい散歩道を設ける

：ハードのリーディングプロジェクト、      ：ソフトのリーディングプロジェクト

保谷駅北部エリアの展開イメージ

農の風景ポイントや直売所を巡る農とのふれあい散歩道

地場産農産物を学校給食へ取り入れる

農業体験の交流拠点  
果物の収穫体験

学校農園として農家と提携

オープンガーデンを巡る農とのふれあい散歩道

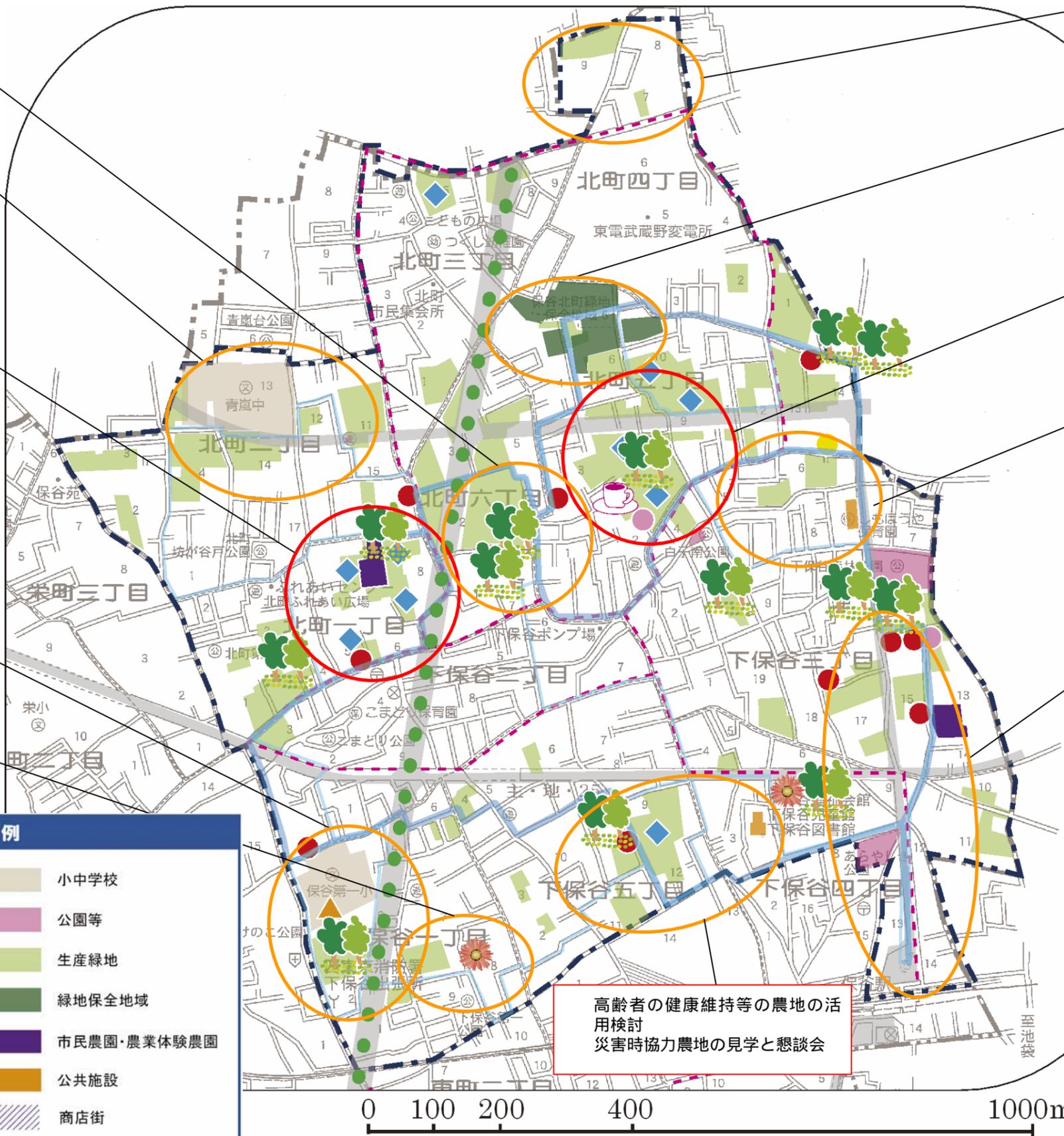
農のアカデミー体験実習農園

農家との連携で落葉の堆肥化

花を活かした直売の交流拠点  
花の体験農園  
花の直売所カフェ  
ガーデニング講座

ちびっこ農園として農家と提携

めぐみちゃんマーケットの開催



凡 例	
● 直売所(野菜)	小中学校
● 直売所(花)	公園等
● 直売所(果実)	生産緑地
▲ 学校農園	緑地保全地域
◆ 災害時協力農地	市民農園・農業体験農園
都市計画道路	公共施設
コミュニティバスルート	商店街

凡 例 ( 展 開 案 )	
—	農とのふれあい散歩道
●	農の風景(郷土景観)ポイント
●	オープンガーデン(既存)
☕	直売所カフェ
●●●	エリアをつなぐ散歩道

高齢者の健康維持等の農地の活用検討  
災害時協力農地の見学と懇談会



## 2) 保谷駅南部エリアの展開案

### エリアの特徴を活かした展開方針

果物を前面に出した情報発信と展開をします。

公共施設の集積を活かした農とのふれあいイベントを開催します。

4つの小学校を活かした農との結び付きを深めます。

防災センターを活かした農の防災機能を発信します。

多面的機能	多面的機能向上及びリーディングプロジェクトの展開案
農産物供給機能 イベント	果物、野菜、花の季節感あふれる農の魅力を伝えます
地産地消	めぐみちゃんマーケットを開催する 商店街での地産地消協力店の設置 地場産農産物を学校給食へ取り入れる
レクリエーション・ コミュニティ機能 地域拠点	果物の拠点をつくり、直売所、生産緑地、緑地保全地域などをつなげます 果物の収穫体験の場を拡充する 果物の直売所カフェをつくる バーベキューができる農園として施設を設ける
福祉・保健機能 福祉	健康づくりやお年寄りの休憩スポット、障害者受入れなど農の活用を広げます 高齢者の健康維持や障害者のリハビリとしての農地の活用を検討する
環境保全機能 環境	雑木林や屋敷林、公園の落葉の堆肥化など農が介在する資源確保を進めます 公園、緑地保全地域の落葉を受入れ堆肥化する協力農家を増やす
教育機能 体験学習	4つの小学校を活かした農とのふれあいの場と機会を拡充します ● 幼児対象のちびっこ農園、小中学校対象の学校農園を拡充する
防災機能 防災	防災センターを活用し、防災農地の役割を発信していきます 防災センターと連携し、農地の持つ防災機能について情報を発信していく 地域住民、農家、市による災害時協力農地の役割や農地の防災機能についての見学と懇談の会を行う
景観形成・歴史文化 伝承機能 散歩道	農の風景と地域の歴史文化を守り、継承していきます 農の風景（郷土景観）ポイントをオープンガーデンの取り組みに組み入れる オープンガーデンや直売所を巡る農とのふれあい散歩道を設ける

：ハードのリーディングプロジェクト、      ：ソフトのリーディングプロジェクト

保谷駅南部エリアの展開イメージ

めぐみちゃんマーケットの開催  
農地の持つ防災機能の情報発信

地産地消協力店の設置

オープンガーデンを巡る農との  
ふれあい散歩道

災害時協力農地の見学と懇談会

地場産農産物を学校給食へ取り  
入れる

高齢者の健康維持等の農地の活  
用

**農業体験の交流拠点**  
バーベキューができる農園  
ちびっこ体験農園

学校農園として農家と提携

ちびっこ農園、学校農園とし  
て農家と提携

農家との連携で落葉の堆肥化

**果物を活かした直売の交流拠点**  
果物の収穫体験  
果物の直売所カフェ

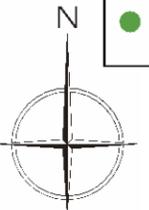
農の風景ポイントや直売所を  
巡る農とのふれあい散歩道



練馬区

凡 例	
● 直売所(野菜)	■ 小中学校
● 直売所(花)	■ 公園等
● 直売所(果実)	■ 生産緑地
▲ 学校農園	■ 緑地保全地域
◆ 災害時協力農地	■ 市民農園・農業体験農園
■ 都市計画道路	■ 公共施設
--- コミュニティバスルート	■ 商店街

凡 例 ( 展 開 案 )	
—	農とのふれあい散歩道
●	農の風景(郷土景観)ポイント
●	オープンガーデン(既存)
☕	直売所カフェ
●●●	エリアをつなぐ散歩道



### 3) 田無駅南部エリアの展開案

#### エリアの特徴を活かした展開方針

植木を前面に出した情報発信と展開をします。

多摩湖自転車道路を活かして市外からも人を呼び込みます。

多摩湖自転車道路から植木を活かしたふれあいエリアへ誘導します。

多面的機能	多面的機能向上及びリーディングプロジェクトの展開案
農産物供給機能 イベント 地産地消	植木、野菜の季節感あふれる農の魅力を伝えます めぐみちゃんマーケットを開催する • 直売所の旬な情報提供と苗木の販売を行う 地場産農産物を学校給食へ取り入れる
レクリエーション・ コミュニティ機能 地域拠点	植木の畑をオープンガーデンとし、直売所、生産緑地などをつなげます 多摩湖自転車道路沿いのオープンガーデンにカフェを併設し交流の場をつくる
福祉・保健機能 福祉	健康づくりやお年寄りの休憩スポット、障害者受入れなど農の活用を広げます 高齢者の健康維持や障害者のリハビリとしての農地の活用を進める
環境保全機能 環境	植木の剪定枝、雑木林や屋敷林、公園の落葉の堆肥化など農が介在する資源確保を進めます 植木の剪定枝を堆肥化して、農家へ提供する 公園の落葉を受入れ堆肥化する協力農家を増やす
教育機能 体験学習	植木をテーマとしたふれあいパークとしていきます • 植木の育て方や剪定などの講座を開催する 幼児対象のちびっこ農園、小中学校対象の学校農園を拡充する
防災機能 防災	地域住民とともに、防災農地の役割を共有していきます 地域住民、農家、市による農地の役割や農地の防災機能について学習を行う
景観形成・歴史文化 伝承機能 散歩道	農の風景と地域の歴史文化を守り、継承していきます 農の風景（郷土景観）ポイントをオープンガーデンの取り組みに組み入れる オープンガーデンや直売所を巡る農とのふれあい散歩道を設ける

：ハードのリーディングプロジェクト、      ：ソフトのリーディングプロジェクト

田無駅南部エリアの展開イメージ

農の風景ポイントや直売所を巡る農とのふれあい散歩道

めぐみちゃんマーケットの開催

植木を活かした直売の交流拠点  
 植木のオープンガーデン  
 直売所カフェ  
 植木の講座

地場産農産物を学校給食へ取り入れる  
 学校農園として農家と提携

農家との連携で落葉の堆肥化

ちびっこ農園、学校農園として農家と提携  
 農地の役割や防災機能について学習



凡 例	
● 直売所(野菜)	小中学校
● 直売所(花)	公園等
● 直売所(果実)	生産緑地
▲ 学校農園	緑地保全地域
◆ 災害時協力農地	市民農園・農業体験農園
— 都市計画道路	公共施設
- - - コミュニティバスルート	商店街

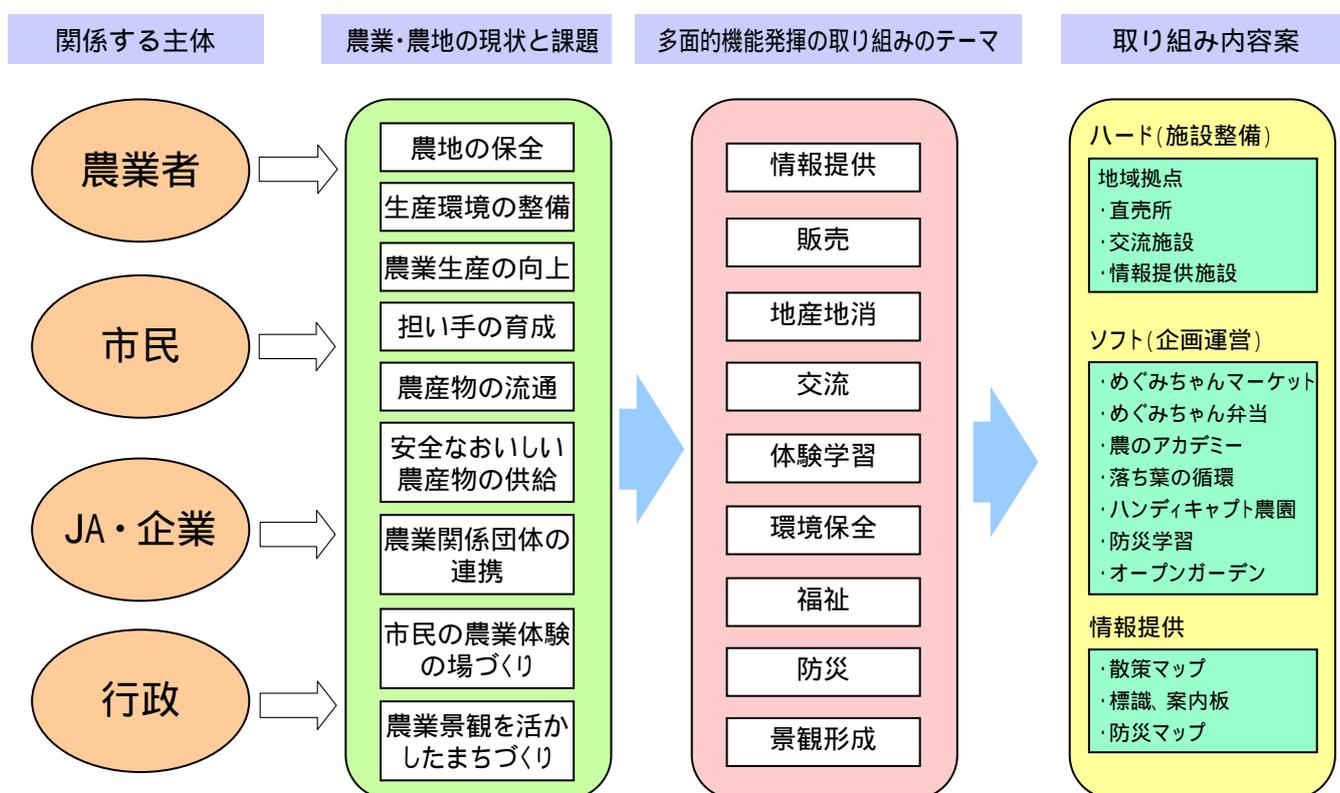
凡 例 ( 展 開 案 )	
— (blue dashed)	農とのふれあい散歩道
● (green)	農の風景(郷土景観)ポイント
● (orange)	オープンガーデン(既存)
● (cup icon)	直売所カフェ
● (green dots)	エリアをつなぐ散歩道

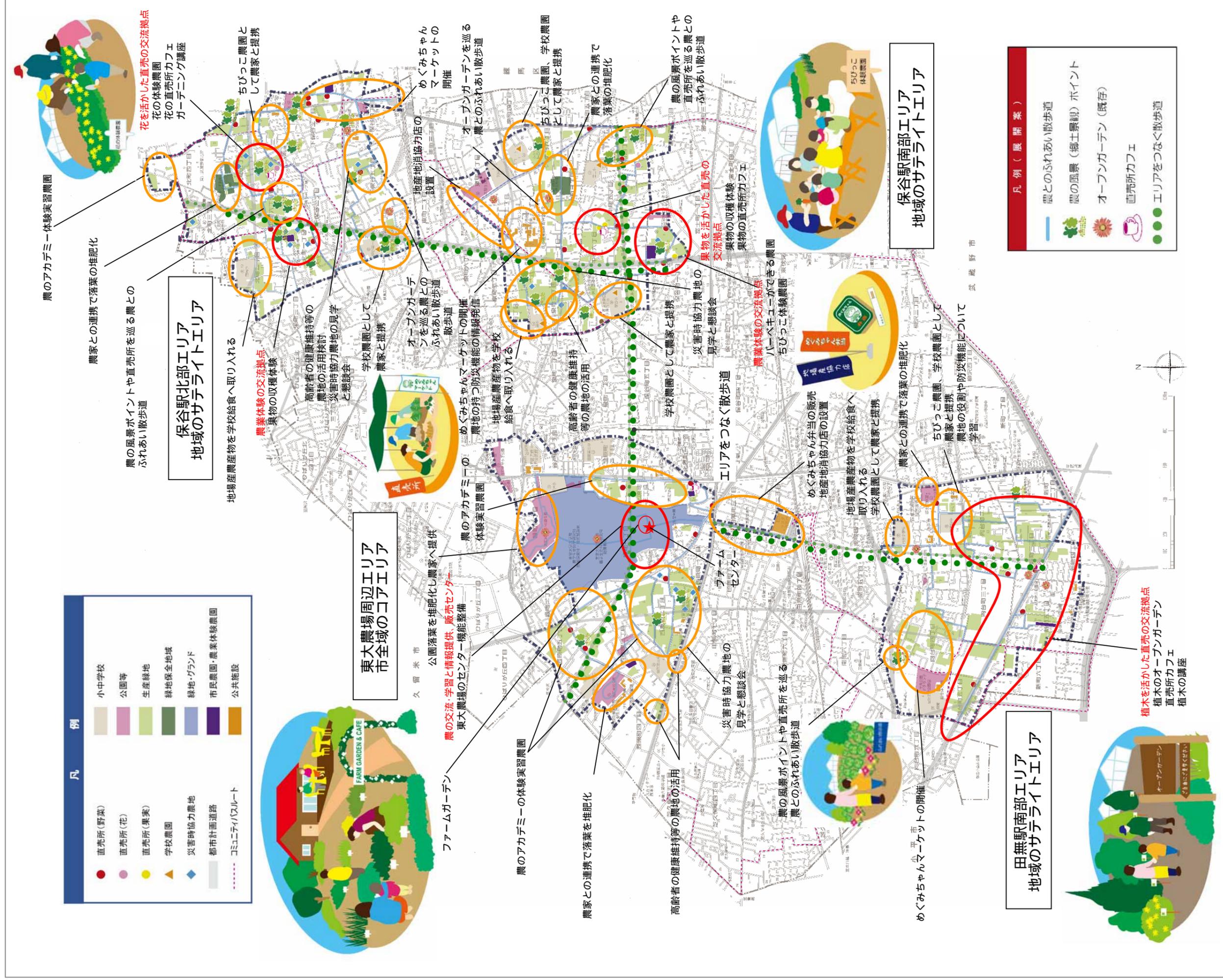


## 6. 今後に向けて

### (1) 多様な主体の参加による西東京市都市と農業が共生するまちづくりの全体的な展開イメージ

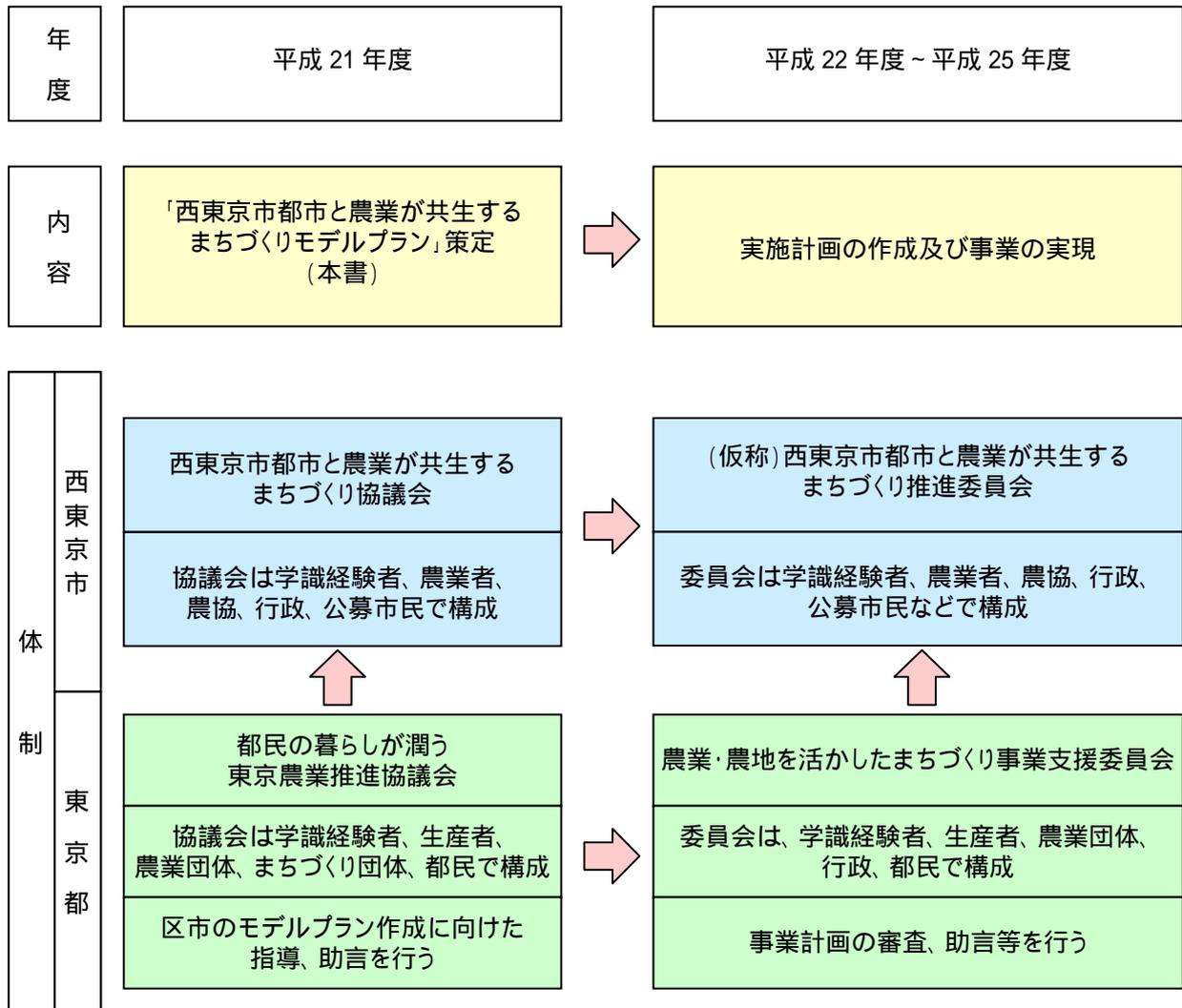
5章での展開案と展開イメージをまとめると、次ページのような全体的なイメージとなります。これらについては、下図のようにそれぞれの関係する主体がかかえる課題や多面的機能発揮のテーマに応じて、具体的な取り組み内容案に関わっていくこととなります。それぞれの主体が参加・連携していくことが都市と農業が共生するまちづくりを推進していくために、求められることであります。





## (2) 今後に向けて

今後、「西東京市都市と農業が共生するまちづくりモデルプラン」を実現するために、関係する主体の関係者を中心に（仮称）「西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会」を設置し、平成 22 年度～平成 25 年度までに実施計画の作成及び事業の実現にむけて関係主体と協力していきます。



## 7 .西東京市都市と農業が共生するまちづくり協議会委員名簿

	氏 名	構成区分	所 属
会 長	伊藤 泰彦	学識経験者	武蔵野大学環境学部
副会長	貫井 正彦	西東京市内の農業者	
委 員	浜 昱子	公募市民	
委 員	山縣 節子	公募市民	
委 員	大木 勝	西東京市内の農業団体職員	東京みらい農業協同組合
委 員	清水 栄	西東京市内の農業団体職員	東京あぐり農業協同組合
委 員	富岡 誠一	西東京市内の農業者	
委 員	本橋 英次	西東京市内の農業者	
委 員	朝長 信次	関係行政機関の職員	東京都農業振興事務所農務課長
委 員	臼井 郁雄	関係行政機関の職員	都市整備部まちづくり総合調整特命主幹
委 員	梅澤 好二	関係行政機関の職員	生活環境部みどり公園課長
委 員	櫻井 勉	関係行政機関の職員	教育部教育企画課長

## 西東京市都市と農業が共生するまちづくりモデルプラン

平成 22 年 3 月

発 行 西東京市生活環境部産業振興課  
(平成 22 年 4 月 1 日より生活文化スポーツ部産業振興課)  
〒202-8555  
東京都西東京市中町 1-5-1  
電 話 042-464-1311 (代表)  
H P <http://www.city.nishitokyo.lg.jp/>